笛吹市文化財調査報告書　第9集

山梨県笛吹市

町　屋　遺　跡

市道八代711、719、758号線改良に伴う

埋蔵文化財調査報告書

2008

笛吹市教育委員会

(財)山梨文化財研究所

序

町屋遺跡は笛吹市八代町米倉と永井に跨っており、古代瓦を出土した瑜伽寺はじめ狭い範囲に寺の多い地域である。本文にもあるとおり、市役所八代支所から南西に向けた地域には古代官衙の存在を思わせる地名が随所に残っており、浅川沿いにある「米倉」は米を集積貯蔵し、水運を利用して笛吹川、富士川へと搬出するための施設があった可能性があると指摘する研究者もいる。米倉以外にも御所、堀之内、侭（儘）ノ下、やや東に離れるが高家などがあり、その名前から宮家に係累をもつ古代の官人が活躍していたことの名残が窺える。

御坂山塊から発した幾多の小河川が笛吹川に向かって緩やかに土砂を吐き出し扇状地を形成したが、傾斜は米倉あたりからいっそう緩くなり、甲府盆地の中心に向かってほぼ平坦になる。水は今述べた小河川、また湧き水によって豊富に供給される。ということで、この地の古代の景観は、整然と区画された豊かな田畑が見渡す限り広がっている・・・というものだったと想像する。

いっぽう長閑な田園風景とは裏腹に、「国家」の収税のシステムは細部に渡るまで整備され、住民は生産活動を厳しく統制され、収奪されていたはずであり、彼ら自身の生活が豊かであったとは言えないのが古代社会の現実であろう。

さて、今回の発掘調査は市道拡幅整備にともなうもので、狭小な空間での苦労多いものであったと聞き及んでいる。時期も真冬で、調査を担当された方々、ご助言くださった諸氏・諸機関のお骨折りに感謝を申しあげるとともに、こうしてその成果が公刊されるに至ったことを喜びたい。

平成20年3月31日

笛吹市教育委員会
教育長　**山　田　武　人**

例　　言

1　本書は山梨県笛吹市八代町米倉地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
2　調査は、市道八代711、719、758号線改良工事に先立ち、笛吹市教育委員会が主体となって実施した。
3　発掘調査は、平成18年1月10日から2月28日にかけておこなった。
4　室内整理・報告書作成作業は、平成18年7月1日から平成19年3月31までと、平成20年1月9日から同年3月31日までに分けて、笛吹市より委託を受けた財団法人山梨文化財研究所が実施した。整理業務参加者は、竜沢みち子・平野　修・柳本千恵子である。
5　本報告書の執筆・編集・写真撮影等は、平野　修（財団法人山梨文化財研究所）がおこなった。
6　本書に係る出土遺物及び記録図面、写真などは笛吹市教育委員会が保管している。
7　発掘調査および報告書の作成にあたっては、次の機関及び諸氏から御指導・ご協力を賜った。記して厚く感謝申し上げる。

山梨県教育委員会学術文化財課　（株）テクノプランニング　（財）山梨文化財研究所
河西学　櫛原功一　工藤忠誠　中山千恵

調査組織

1　調査主体　　笛吹市教育委員会
2　調査担当　　小渕忠秋・平野　修
3　調査参加者
伊藤津眞子・岩﨑満佐子・長田くみ子・橘田由利子・窪田信一・竜沢みち子・田中真紀美・角田　晃・萩原　忠・柳本千恵子・渡辺喜乃女

事務局

教　育　長　山田武人
文化財課長　小川勝明
文化財担当　小渕忠秋
〃　　阿部　勲

凡　　例

1　遺構・遺物の縮尺は、原則として各図ごとに示している。
2　本書第1図で使用している地図は、国土地理院発行の地形図「甲府」（1:50,000）を使用し、第2図は、1990年八代町教育委員会発行『遺跡詳細分布調査報告書 八代町埋蔵文化財調査報告書第7集』から転載している。
3　遺物の挿図番号は、各遺構ごとに連番で付した。遺物分布図および観察表・本文中の番号は対応している。
4　各遺構における遺物分布図で示したマークは、遺物の種類にかかわらず全て●で示している。
5　土層および遺物の色調名は、『新版標準土色帳』13版（農林省水産技術会議事務所監修　小山正忠・竹原秀雄編・著　1993）によっている。
6　遺物図版中の平安時代土器および陶器の断面が黒塗りの場合は須恵器を示している。土器内外面の濃い点スクリーントーンは油煙の範囲を、網状のスクリーントーンはウルシ状付着物の範囲、やや薄い点状のスクリーントーンは黒色処理もしくは赤彩を、斜線は磨り面等の二次転用された範囲を示している。また矢印は灰釉の範囲を示している。凹石の外形線に沿った矢印は、擦り面の範囲を示している。

本文目次

序
例言・凡例
目　次
挿図目次
写真図版目次
表目次

第Ⅰ章　調査の経緯と概要 …… 1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 1
第Ⅲ章　調査方法と層位 …… 4
第Ⅳ章　検出された遺構と遺物 …… 9
第１節　竪穴建物跡[SI] …… 9
第２節　土坑・ピット[SK] …… 11
第３節　溝状遺構・旧流路跡[SD] …… 11
第４節　遺構外出土遺物 …… 12
第５節　試掘調査出土遺物 …… 12
第Ⅴ章　まとめ …… 13
写真図版

挿図目次

第１図　遺跡の位置と周辺官衙関連・寺院遺跡分布図 …… 2
第２図　周辺遺跡分布図 …… 3
第３図　試掘トレンチ配置図 …… 4
第４図　調査区およびグリッド設定図 …… 5
第５図　遺構配置図 …… 7・8
第６図　SI1・2・4号竪穴建物跡、SK1 …… 21
第７図　SI2・3号竪穴建物跡 …… 22
第８図　SI5・6号竪穴建物跡、SK10～15・19・20・47・48 …… 23
第９図　SI6・7号竪穴建物跡、SK21～29・33～46 …… 24
第10図　SI7号竪穴建物跡、SK2～5 …… 25
第11図　SK6～9、SD1～3 …… 26
第12図　SK16～18・24～27・29～32・41～44、SD4～6・8・9 …… 27
第13図　SI1・2出土遺物 …… 28
第14図　SI2出土遺物 …… 29
第15図　SI2・3出土遺物 …… 30
第16図　SI4・5出土遺物 …… 31
第17図　SI6・7出土遺物 …… 32
第18図　SI7、SK1～3・5・7・10出土遺物 …… 33
第19図　SK11・13・14・16・19・20～22・31出土遺物 …… 34
第20図　SD2～4・6、遺構外出土遺物 …… 35
第21図　遺構外出土遺物 …… 36
第22図　試掘調査出土遺物(1) …… 37
第23図　試掘調査出土遺物(2) …… 38

写真図版目次

図版１　1.遺跡調査前状況（第１トレンチ付近、東から） 2.遺跡調査前状況（第２・３トレンチ付近、南から） 3.遺跡調査前状況（第２トレンチ東西ライン付近、西から） 4.重機によるトレンチ掘削風景１ 5.重機によるトレンチ掘削風景２ 6.調査風景１ 7.第２トレンチ東西ライン完掘全景 8.第２トレンチ東西南北ライン完掘近景（南東から） 9.第２トレンチ南北ライン・第３トレンチ完掘近景（南東から） 10.第３トレンチ完掘近景（北から） 11.第３トレンチ完掘近景（南から） 12.第１トレンチ（SD8・9）完掘全景（南から） 13.第１トレンチ（SD8・9）西壁南側セクション（北東から） 14.第１トレンチ（SD8・9）西壁北側セクション（北東から） 15.第２トレンチ（SD7）検出状況（東から）
図版２　16.SI1完掘状況（南東から） 17.SI1遺物出土状況（南から） 18.SI1カマド完掘状況 19.SI2・4完掘状況（西から） 20.SI2カマド完掘状況 21.SI2カマド遺物出土状況 22.SI2カマド脇遺物出土状況 23.SI3完掘状況（西から） 24.SI3カマド検出状況 25.SI3棚状施設セクション 26.SI3棚状施設上面出土土器 27.SI4遺物出土状況全景（南東から） 28.SI4遺物出土状況近景 29.SI5完掘状況（東から） 30.SI05内間仕切り施設等検出状況（南から）
図版３　31.SI6完掘状況（東から） 32.SI6内SK14・15・19・20完掘状況（南から） 33.SI6内SK14遺物出土状況 34.SI6内SK10・12検出状況 35.SI7完掘状況（南西から） 36.SI7カマド検出状況 37.SI7カマド周辺部遺物出土状況（西から） 38.SI7カマド前面土器出土状況 39.SI7カマド南脇遺物出土状況 40.SI7内SK21遺物出土状況 41.SI7内SK21遺物出土状況近景 42.SK1検出状況（東から） 43.SK2検出状況（西から） 44.SK3遺物出土・完掘状況（北東から） 45.SK3遺物出土状況
図版４　46.SK4・5完掘状況（西から） 47.SK5完掘状況（東から） 48.SD1・SK6・7完掘状況（北東から） 49.SK6・7完掘状況（南東から） 50.SK9・SD2完掘状況（東から） 51.SK9完掘状況（北から） 52.SK24～29・40～45等完掘状況（南から） 53.SK32完掘状況（南から） 54.SD3完掘状況（東から） 55.SD3遺物出土状況 56.SD4完掘状況（北から） 57.SD5・6、SK31完掘・遺物出土状況（南から） 58.SD6・SK31遺物出土状況（北から） 59.調査風景２ 60.調査風景３
図版５　出土遺物①
図版６　出土遺物②
図版７　出土遺物③

表目次

第１表　町屋遺跡SK（土坑・ピット）一覧表 …… 15
第２表　町屋遺跡出土土器観察表 16
第３表　町屋遺跡出土土製品観察表 19
第４表　町屋遺跡出土金属製品観察表 …… 20
第５表　町屋遺跡出土石製品観察表 20

第Ⅰ章　調査の経緯と概要

今回報告する町屋遺跡の発掘調査は、事業主体者である笛吹市が、同市八代町米倉47-2番地外において市道改良工事を計画し、市教育委員会に埋蔵文化財の有無の照会をおこなってきた。市教育委員会では遺跡地図との照合をおこなった結果、周知の埋蔵文化財包蔵地である「町屋遺跡」内に位置しており、現地踏査でも平安時代を中心とする遺物の散布が認められた。そのため、文化庁および山梨県から補助金を受け、計画予定地内の埋蔵文化財の有無を確認するため、平成17年10月11日から10月21日にかけて試掘調査を実施した。

その結果、竪穴建物跡の床面と思われる硬化面と多量の平安時代の土器資料が出土したことから、山梨県教育委員会学術文化財課と笛吹市で協議をおこなったところ、遺構密度が濃いと思われる計画予定地西側の約1,550㎡を対象に記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、平成18年1月10日から2月28日まで実施し、その結果、平安時代を中心とする竪穴建物跡（SI）7棟、土坑・ピット（SK）48基、溝状遺構・旧流路跡（SD）9条が検出された。なお、整理作業および報告書作成業務は、発掘調査終了後、平成18年度、19年度の各年度ごとに（財）山梨文化財研究所に委託して実施し、平成20年3月に報告書刊行に至った。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第1節　位置と地理的環境

山梨県笛吹市は、平成16年10月に、旧東八代郡八代町、石和町、御坂町、一宮町、境川村、東山梨郡春日居町が合併して発足し、平成18年8月には東八代郡芦川村を編入合併し現在に至っている。そのうち町屋遺跡が所在するのは、旧東八代郡八代町域であり、現所在地は山梨県笛吹市八代町となっている。

現笛吹市八代町域は、甲府盆地の南東縁に位置し、南東部には御坂山脈の中央部の山地が広がり、北側に笛吹川、東側に天川、西側に浅川が流れる。御坂山地から甲府盆地に向かって神座山を水源とする浅川が西流し、その浅川を主体として形成された浅川扇状地が展開している。町屋遺跡は浅川の右岸の緩やかな傾斜をもつ標高295m前後を測る扇状地上に立地し、さらにその微高地と網状に展開する埋没旧河道が入り組む微高地上に立地している。

第2節　歴史的環境

御坂山地の山麓から浅川扇状地にかけての一帯は、縄文時代からの遺跡が濃密に分布する地域と知られ、特に縄文時代では、前期の集落遺跡である花鳥山遺跡が挙げられる。多量の土器群の他、獣骨や魚骨、堅果やエゴマなど当時の食生活に関する幅広い自然資料が出土した遺跡として知られる。また、弥生時代後期の集落遺跡である身洗沢遺跡は県内ではじめて水田跡が検出された遺跡として知られる。

甲府盆地において濃密な古墳の分布域である曾根丘陵の東端に属し、古墳時代には八代町岡にある岡銚子塚古墳をはじめとして前方後円墳や、県内唯一の方墳である八代町米倉の竜塚古墳など数多くの古墳が分布する。特に岡銚子塚古墳は畿内色を持つ甲斐銚子塚古墳（甲府市、旧中道町）の盟主墳とも考えられている。旧八代町域は古代甲斐国における初期王権の成立過程においても注目されており、古墳後期から奈良時代・平安時代にかけての集落遺跡も分布し、永井に所在する瑜伽寺では、白鳳～天平期の薬師如来塑像をもち、甲斐国分尼寺出土瓦と同范と思われる軒平瓦が出土しているとされている。

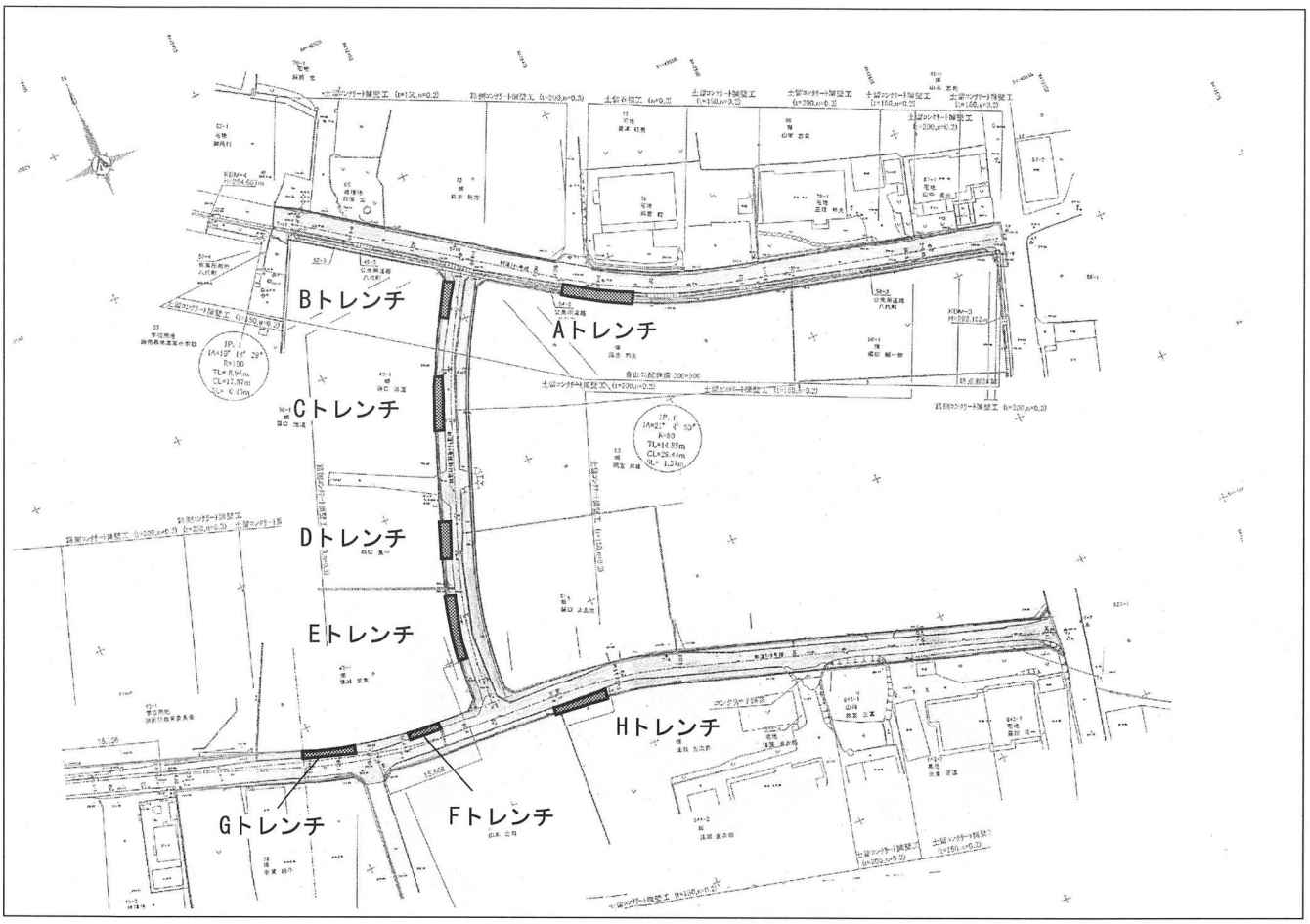
第１図　遺跡位置と周辺官衙関連・寺院遺跡分布図（1/50,000）

１．町屋遺跡　２．瑜伽寺　３．堀ノ内遺跡　４．推定国衙跡
５．国分僧寺　６．国分尼寺　７．寺本廃寺および国府遺跡

第２図　周辺遺跡分布図

1 屋敷ノ内
2 塚越
3 神ノ木
4 鎌田
5 矢ノ畑
6 一町五反
7 沢又木
8 角田
9 壱町田
10 上反田
11 穴田
12 柳田
13 泉田
14 雁甲Ｂ
15 宮田
16 雁甲Ａ
17 渋田
18 芦川田
19 身洗澤
20 鶴辺
21 三原沢
22 北・向田
23 福田
24 下長沢
25 馬見塚
26 安事田
27 長沢
28 横田
29 下長崎
30 豊気
31 南居
32 米倉・向田
33 町屋
34 今宮
35 天神原
36 宮之後
37 長慶事
38 下原
39 向原
40 根岸
41 扇田
42 弁戈天
43 長崎
44 五里原
45 真道澤
46 侭ノ下
47 神田
48 原
49 二子塚
50 堀ノ内
51 大庭
52 和泉
53 竹之内
54 奴白
55 森ノ上南
56 山ノ神
57 森ノ上北
58 宮川
59 八王子
60 伊勢之宮
61 上小下
62 久保Ａ
63 下神之木
64 上神之木
65 金地蔵
66 御崎林
67 堀川
68 久保Ｂ
69 下小下
70 芝草
71 大橋
72 川後塚
73 絵毛
74 綿熨斗
75 丸山
76 東小山Ａ
77 東小山Ｂ
78 東小山Ｃ
79 宮ノ後
80 中丸
81 横堰
82 高家・御崎
83 塚田
84 土井原
85 沢添
86 北割
87 岡・村上
88 南・村上
89 浅見原
90 大久保
91 清水
92 田中畑
93 早稲田
94 法花田
95 八反田Ａ
96 八反田Ｂ
97 一町田
98 梅ノ木田
99 青木田
100 後藤
101 前田
102 梨木
103 中原
104 蝙蝠塚
105 南原
106 久保畑
107 柚木
108 竹居・御崎
109 土原
110 花鳥山
111 深沢道上
112 切付平
113 矢沢
114 大覚林
115 稲山原
116 銚子原
117 八幡
118 夜長
119 大仏塚
120 花田
121 金山
122 竜安寺川西
123 上ノ平Ａ
124 上ノ平Ｂ
125 大谷沢Ａ
137 八幡さん古墳
138 弁財天塚古墳
139 狐塚古墳
140 樹塚(荘塚)古墳
142 物見塚古墳
143 鎧塚古墳
144 能成寺塚古墳
145 信守塚古墳
147 伊勢塚古墳
148 団栗塚古墳
149 真根子塚古墳
151 双子塚古墳
152 雌蟻塚古墳
153 雄蟻塚古墳
155 大塚古墳
156 古柳塚古墳
157 地蔵塚古墳
158 山神塚古墳
159 馬見塚古墳
160 猿子塚古墳
164 石塚古墳
165 蝙蝠塚古墳
168 芋塚古墳
174 蝙蝠塚第一号墳
175 蝙蝠塚古墳
176 狐塚古墳
182 おこり塚古墳
184 こおり塚古墳
185 御崎古墳
186 御崎二号墳
189 八幡塚古墳
190 大仏塚古墳
191 鳩峰古墳
193 竜塚古墳
194 富士塚古墳
195 盃塚古墳
196 銚子塚古墳
200 屋敷ノ内
201 武田信守館跡
202 能成寺跡
203 奴白屋敷跡
204 飯田氏屋敷跡
205 下新兵衛屋敷跡
206 浪人屋敷
207 米倉氏館跡
208 米倉氏館跡
209 小山城址
210 高家三郎屋敷跡

※スクリーントーン部は条里制遺構範囲



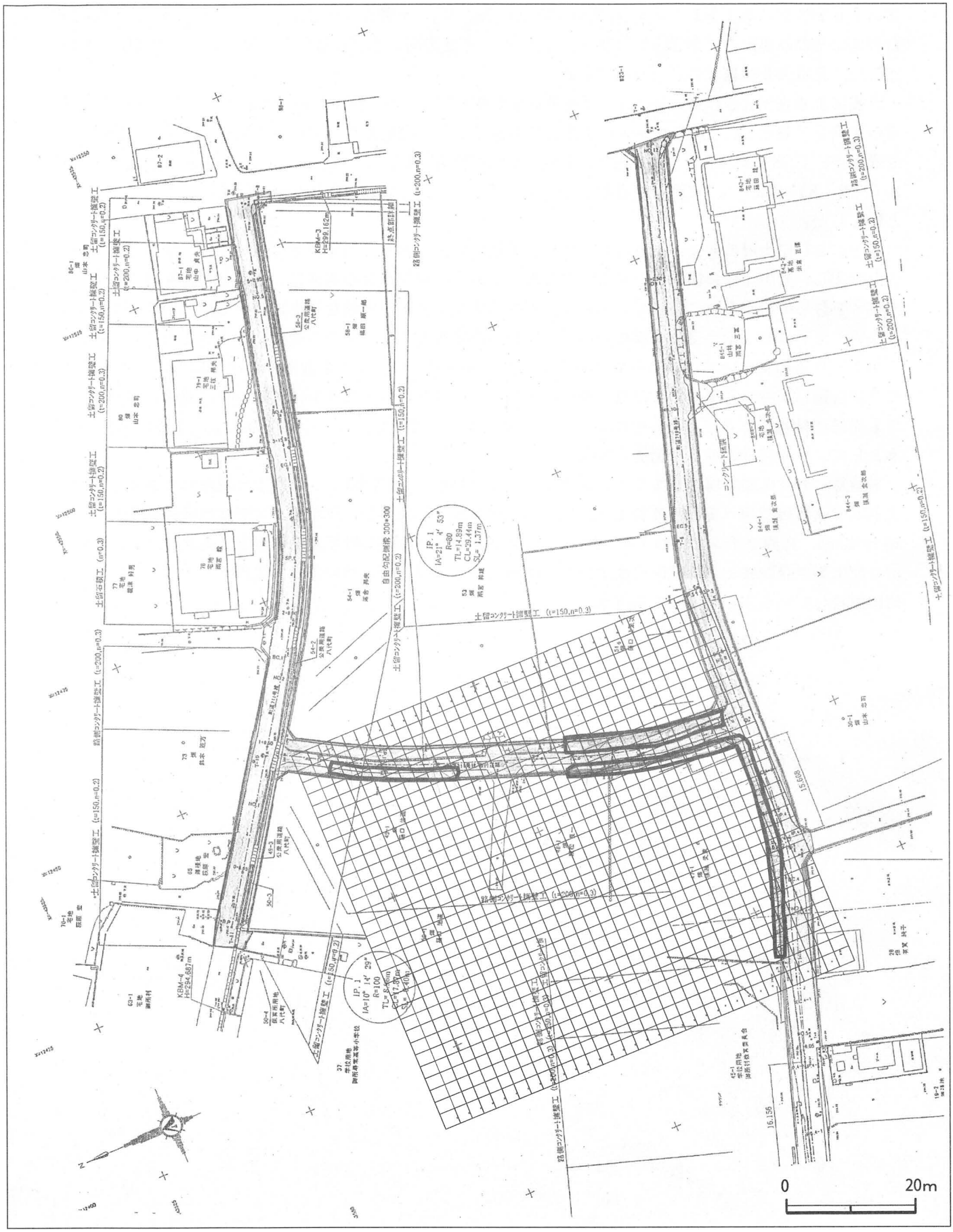
第３図　試掘トレンチ配置図

現在の笛吹市域は、律令制下では山梨郡と八代郡に属し、『和名類聚抄』の記載には「国府は八代郡にあり」とみえ、笛吹市御坂町国衙をその遺称とみなす説が有力である。郷では、町屋遺跡のある笛吹市八代町は八代郷と長江郷に比定されている。八代郷は郡名の由来にもなっており、高家や米倉といった郡家や古代官衙に関わる地名遺称もみられることから、郡家やその他の官衙施設が所在した地である可能性も極めて高い。旧八代町域には、先の浅川沿いには官道ではないが、甲斐国と東海道を結ぶ古道である「若彦路」が通っており、日本武尊（ヤマトタケル）に関する伝承が残されているとともに、中世には甲斐源氏挙兵時にも利用されたとされている。

平安時代には熊野社領となる八代荘が成立し、「長寛勘文」にみられる国司と荘園領主の対立から、国司側が敗北した荘園停廃事件が起こる。この事件に連座した在庁官人の三枝氏は没落し、中世には国中地方の各地で勢力を広げた甲斐源氏の一族が町域にも進出する。

第Ⅲ章　調査方法と層位

発掘調査は、前述したとおり、試掘調査の結果を受け開発予定地内の西側部分を中心におこなった（第３・４図参照）。調査は道路拡幅部分および擁壁部分の、極めて狭い幅のトレンチ調査となっている。調査区は幅約 2.5 m、長さ約 25 mを測る南北方向に延びるトレンチが一箇所、そして幅約 1.5 m、長さ約 20 mを測る、同じく南北方向に延びるトレンチがもう一箇所。さらに幅約 1.5 m東西方向約 35 m、南北方向約 25 mを測る逆Ｌ字状を呈するトレンチが１箇所、計３箇所となっている。調査の便宜を図るため、前



第４図　調査区およびグリッド設定図

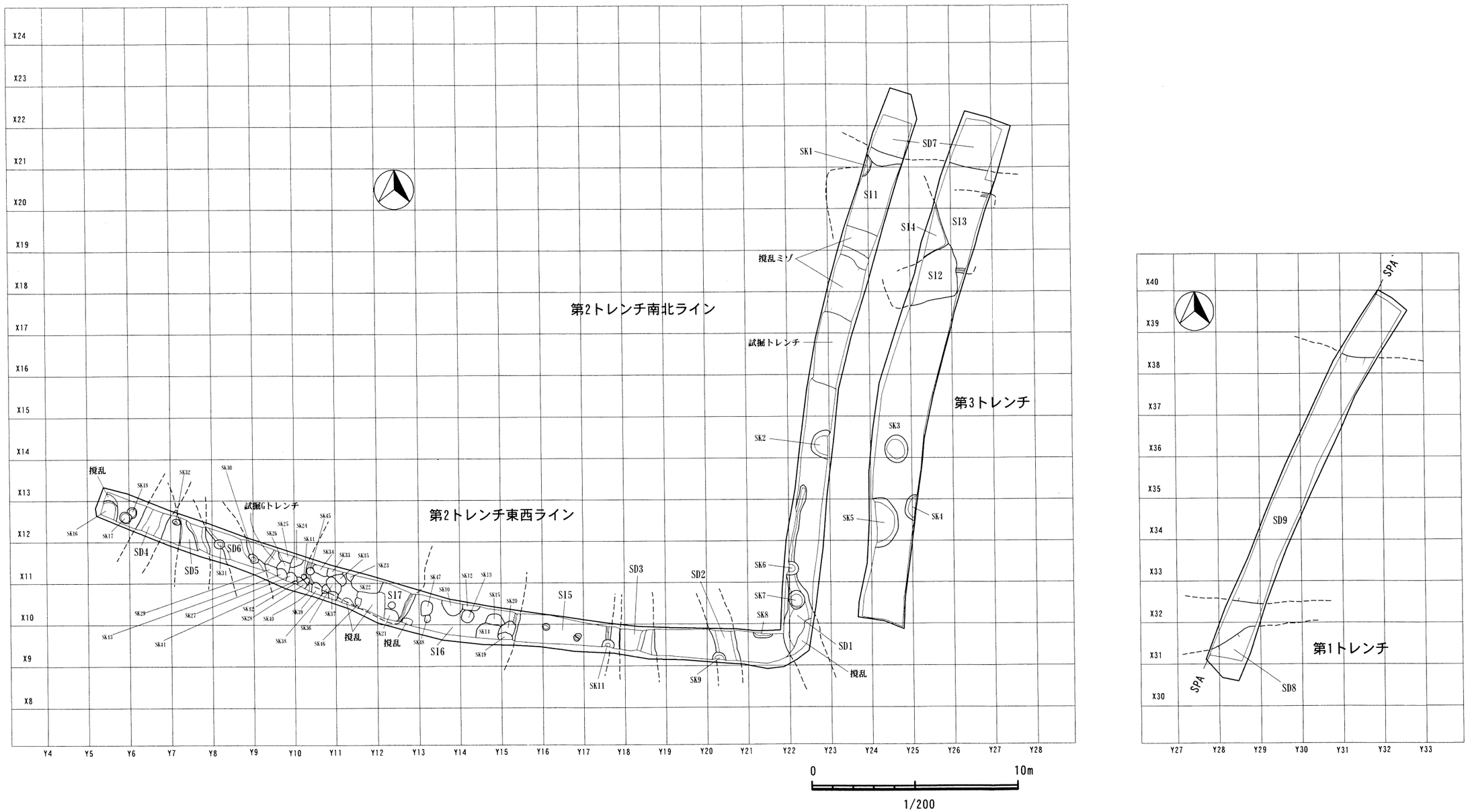
者のトレンチを「第１トレンチ」、中者を「第３トレンチ」、後者を「第２トレンチ」と呼称し、さらに東西方向に延びる箇所を「第２トレンチ東西ライン」、南北方向に延びる箇所を「第２トレンチ南北ライン」とした。発掘調査面積は合計 200 ㎡である。

重機による表土剥ぎ作業の終了後、計画予定地全体を覆うように国土座標にあわせて、南北方向をＸ軸、東西方向をＹ軸とし、２ｍメッシュを基本とするグリッドを設定した。南西隅を基点として、世界測地系座標 X＝－43300.000、Y ＝ 12100.000 を原点（X=0、Y=0）としている。グリッドの名称は南北方向を南から X0・X1・X2・・・、東西方向を西から Y0・Y1・Y2・・・とし、南西隅を基点として、X1Y1 グリッドと呼称した。

表土および盛土層の除去・掘削については、重機を使用したが、遺構調査については、すべて人力で覆土を除去し、発生土の排出についても人力でおこなった。確認された遺構は、確認されたものから順次遺構番号を付して調査をおこなっていったが、重複し新旧関係が不明瞭な遺構については、同時に調査をおこない、土層観察・出土遺物の様相から新旧関係の決定をおこなってから遺構番号を付したものもある。

出土した遺物については、原位置が判明する直径３㎝以上の大きさを測る土器片等については、極力、光波測量器によって各遺構および出土地点ごとにナンバリングして取り上げていった。遺構の測量についても光波測量器による平面測量を中心とし、カマドなど小規模な遺構については 1/10・1/20 の縮尺を基本として、平板測量と遣り方測量も併用した。

本遺跡における基本層位を第２トレンチでみると（第６・８図等参照）、現表土・現耕作土および旧耕作土直下で遺構確認面（黄褐色砂質土 :10YR5/8 小礫含む）が表出し、南北ラインでは遺構確認までおよそ 30 ～ 40 ㎝、東西ラインではおよそ 50 ～ 70 ㎝を測る。竪穴部壁の残存高をみると、南北ライン、東西ライン検出竪穴建物跡ともほぼ同程度であり、確認面までの深さのレベル差は、北東から南西にかけて地形的に傾斜していることが要因であろう。


第2トレンチ南北ライン
第2トレンチ東西ライン
第3トレンチ
第1トレンチ
試掘トレンチ
試掘Gトレンチ
攪乱ミゾ
攪乱
SK1
SD7
S11
S14
S13
S12
SK2
SK3
SK4
SK5
SK6
SK7
SK8
SD1
SD2
SD3
S15
SK11
SK9
S16
S17
SD4
SD5
SD6
SD9
SD8
SPA
0
10m
1/200

第５図　遺構配置図

第Ⅳ章　検出された遺構と遺物

第１節　竪穴建物跡［SI］

SI1（第６・13図）

（位置）第２トレンチ南北ラインの北端部分、X18～21・Y23・24グリッドにて検出。（重複・遺存状況）SK1に掘り込まれ、現地境溝と思われる撹乱坑により、本遺構南側が破壊されており、遺構の大半は調査区外に延びている。（形態・規模等）形態は隅丸方形を呈するものと思われ、南北軸は4.5ｍ以上を測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は不明。竪穴部の確認面からの深さは最大44㎝を測り、床面は貼床で、カマド前面部がやや堅固。（柱穴）柱穴北壁際で小ピットが１基検出されているのみ。（カマド）北壁において検出。焼土範囲として確認され、遺存状態は悪く燃焼部掘り方と石製支脚が検出されたのみ。（出土遺物）カマド周辺部を中心に散在的に出土しており、床面直上レベルのものが多い。および貼床内からの出土が多い。土師器坏（刻書土器含む）・甕、土師質柱状高台片、須恵器甕などが出土。（時期）８世紀前半代～中頃。

SI2（第６・７・13・14）

（位置）第３トレンチ北端部分、X17～19・Y24～26グリッドにて検出。（重複・遺存状況）SI3・4と重複し、SI1とも重複していると思われる。SI4に掘り込まれていることは明確だが、SI1・3との新旧関係は不明瞭。出土遺物の時期から、SI1より新しく、SI3より古い。（形態・規模等）形態は隅丸方形を呈するものと思われるが不明。規模も不明で検出された南北軸約2.4ｍ、、東西軸約2.5ｍの範囲を検出。（壁・壁溝・床面等）壁溝は南壁下において一部検出。竪穴部の確認面からの深さは最大35㎝を測り、床面は全体的にやや軟弱。（柱穴）不明。（カマド）東壁において石組カマドを検出。右袖部の石組は抜き取られ、燃焼部埋土上部に据え置かれたような状態で検出。人為的な破壊行為がうかがわれる。（その他施設）南東コーナー部にち長方形を呈する貯蔵穴状の掘り方を検出。長軸0.90ｍ、短軸0.58ｍ、深さ0.18ｍを測る。カマド構築土に被覆されており、さらに埋土上面から土師器坏や礫が出土しているため、貯蔵穴ではなく、竪穴部掘り方の可能性もある。（出土遺物）遺物の出土量は多いが、出土レベルの幅も広く、時期的にも８世紀代と10世紀代とバラツキがみられる。土師器坏（墨書・刻書土器含む）・甕、須恵器坏・甕、灰釉陶器椀などが出土している。（時期）カマド内出土遺物および床面直上遺物の時期から８世紀後半代としておきたい。

SI3（第７・15図）

（位置）第３トレンチ北端部分、X18～20・Y26・27グリッドにて検出。（重複・遺存状況）SI2・4と重複している。各遺構との新旧関係は不明瞭。出土遺物の時期からも、SI2より新しいと判明するが、SI4とは時間差がみられない。（形態・規模等）形態は隅丸方形などを呈するものと思われるが全容は不明。南北軸の規模については、現状で4.05ｍを測る。東西軸については不明である。（壁・壁溝・床面等）壁溝は東壁の一部において確認されているにすぎない。確認面からの竪穴部の深さは最大56㎝を測り、床面はカマド前面部で一部堅固な範囲を確認。（柱穴）北壁際で柱穴状のピットが１基検出されているが、柱穴かどうかは不明。（カマド）東壁において、その前面部の一部を検出。石組み。確認段階では、袖石と思われる礫が床直でカマド北脇の床面直上から出土。燃焼部埋土上面からも出土。焼土の残存は顕著ではない。（その他施設）カマド右袖に付随するように棚状施設が付設されている。２～３層から成る盛土層で構築されている。その上面に接する状態で、「大」と墨書された土師器坏が正位で出土している。（出土遺物）遺物の出土量は、全体的にあまり多くないが、土師器坏・皿・甕、須恵器蓋・壺・甕などが出土。特筆されるものとして、土師器坏でウルシ付着の刻書土器や、前述した「大」と記された墨書土器が挙げられる。（時期）９世紀末～10世紀初頭。

SI4（第６・16図）

（位置）第３トレンチ北端部分、X18～20・Y25～26グリッドにて検出。（重複・遺存状況）SI2・3と重複し、

SI1とも重複していると思われる。SI2を掘り込んで構築しているが、SI1・2との新旧関係は不明瞭。（形態・規模等）形態は隅丸方形を呈するものと思われるが全容は不明で、規模は検出された現状で南北軸約2.3 m、、東西軸約1.3 mを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は不明。竪穴部の確認面からの深さは最大34 cmを測り、床面は多少硬化しているものの、概して軟弱である。（柱穴）不明。（カマド）不明。（出土遺物）遺物の出土量は多い。土師器坏（墨書土器含む、「大」）・高台坏（刻書土器含む）・皿（墨書土器含む、「大」）甕、須恵器坏などの小片が出土している。（時期）9世紀末～10世紀初頭。

SI5（第8・16図）

（位置）第2トレンチ東西ライン東側、X9・10Y15～17グリッドにて検出。（重複・遺存状況）SI6およびSK11と重複し、いずれの遺構にも掘り込まれており、大半が調査区外に延びている。（形態・規模等）形態は不明。検出規模は東西軸約4.5 mを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は東壁下において一部検出。竪穴部の確認面からの深さは最大約21 cmを測り、床面は全体に堅固である。SK14の上面を中心とする床面上には、炭化物層の範囲が認められた。（柱穴）柱穴と思われる径26～35 cm、深さ25～40 cmを測るピット1・2が検出されているが、断定はできない。（カマド）検出されていないが、北面セクションかかるように、ややまとまった扁平な礫が検出されている。これら礫が抜き取られたカマドの袖石である可能性も考えられる。（その他施設）床面中央付近において小ピットを伴う幅18～20 cm、深さ5～6 cmを測る小溝が逆L字状にみられ、これは間仕切り施設に伴う溝と思われる。また、ピット3のように、根石のような小礫を伴って扁平な礫を埋設しているピットや、床面に据え置かれたような扁平な礫がみられるが、これは柱の礎石となる可能性もある。（出土遺物）遺物の出土量は、あまり多くない。竪穴床面直上レベルの竪穴中央から東側にかけて散在的に出土している。土師質土器皿・坏、白磁椀片などが出土している。（時期）11世紀末～12世紀初頭。

SI6（第8・9・17図）

（位置）第2トレンチ東西ライン中央部分、X9・10Y12～15グリッドにて検出。（重複・遺存状況）SI5およびSK10・12・13～15・19・20・47・48と重複しているが、SK13～15・19・20・47・48は、土層断面観察から本竪穴に伴う床下土坑と判断される。東側は、SI5を掘り込み、SK10・12に掘り込まれている。西壁は欠失しているが、トレンチ北面の断面観察の結果、西壁の立ち上がりが確認できた。（形態・規模等）形態は隅丸方形を呈するものと思われるが全容は不明で、東西軸は約4.8 mを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は東壁下において一部検出。竪穴部の確認面からの深さは最大35 cmを測り、床面は竪穴中央部から東側にかけて堅固である。（柱穴）小ピットは数基検出されているが、柱穴になるかどうかは不明。SK48ではSI5ピット3と同様に、扁平な礫が埋設された状態で検出されており、これも柱礎石となる可能性もある。（カマド）不明。（出土遺物）遺物の出土量は多くない。当初SK14・19・20・47に伴う出土として取り上げた遺物も、本来は本竪穴建物跡に伴う遺物群として捉えられる。土師質皿、土師質堝片、灰釉陶器片、青白磁片、須恵器甕片（二次転用品含む）などが出土している。（時期）11世紀末～12世紀初頭。

SI7（第9・10・17・18図）

（位置）第2トレンチ東西ライン西側、X10・11Y10～12グリッドにて検出。（重複・遺存状況）SK21～23・33～39・45・46などと重複するかたちとなっているが、これらは検出面からいずれも本竪穴建物跡に伴う床下土坑および掘り方だと思われる。南壁側東寄りでは、畑潅漑におけるスプリンクラーの送水管の埋設に伴う撹乱坑によって破壊されている。（形態・規模等）形態は隅丸方形を呈するものと思われるが全容は不明で、東西軸は約5.8 mを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は東壁下および西壁下において一部検出。竪穴部の確認面からの深さは最大34 cmを測り、床面はカマド周辺部のみやや堅固。（柱穴）柱穴状のピットが数基検出されているが、柱穴になるかどうか不明。（カマド）東壁に付設されているものの、その大半は調査区外にあり、右袖部の側面部を検出したに過ぎない。長軸0.77 mを測り石組である。カマド南側の床面上には、カマドに伴うと思われる焼土範囲が認められた。（出土遺物）遺物の出土量は多い。カマド前面およびその南側などの床面直上レベル、SK21などの床下土坑内からの出土が多い。土師質土

器坏・皿・鍋、台状底部をもつ皿、植物繊維痕がみられる粘土塊などが出土している。また、後述する試掘調査Gトレンチの出土の遺物群のほとんどは、その出土位置から本竪穴建物跡に伴う遺物群であると思われ、高台部に穿孔を施した灰釉陶器椀、灰釉陶器壷、鉄製紡錘車などがある。(時期) 11世紀末～12世紀初頭。

第2節　土坑・ピット［SK］(第6～12・18～19図)

今回の調査で、SK №を付して検出した土坑・ピットは計48基である。この中には、先に報告した竪穴建物跡に伴う床下土坑のものも含まれている。各遺構の規模等のデータについては、後掲第1表の一覧表にまとめたので、それを参照されたい。

第3節　溝状遺構・旧流路跡［SD］(第5・6・11・12・20図)

本調査では計9条検出されている。いずれも部分的な検出のため、その全体像は不明で、用途・性格も不明な点が多い。

SD1 (第11図)

X9～13Y21・22グリッドに位置し、南北方向に延びる溝状遺構である。SK6・7などと重複しており、本遺構がSK6に掘り込まれ、SK7の上部に構築している。南側は撹乱により欠失しているが、さらに南側の調査区外に延びると思われる。幅0.35～1.2 m、確認面からの深さ15 cmほどを測り、断面形態はU字状ないし浅いナベ状を呈している。出土遺物はほとんどみられないため、詳細な所属時期は不明。

SD2 (第11・20図)

X9Y20グリッドに位置し、南北方向に延びる溝状遺構である。SK9と重複しており、同遺構に掘り込まれている。南側は撹乱により欠失しているが、さらに調査区外に延びると思われる。幅1.1 m前後、確認面からの深さ24～30 cmを測り、断面形態はナベ状を呈している。出土遺物は土師器甕、須恵器甕の小片がわずかに出土しているにすぎない。詳細な所属時期は不明。

SD3 (第11・20図)

X9Y18・19グリッドに位置し、南北方向に延びる溝状遺構である。幅1.7 m前後、確認面からの深さ18 cmを測る。断面形態はナベ状を呈している。土師質土器および灰釉陶器の小片が散々的に出土している。所属時期は、出土遺物の状況からすれば、11～12世紀代と考えられようか。

SD4 (第12・20図)

X12Y6グリッドに位置し、北東～南西方向に延びる溝状遺構である。幅1.2～1.3 m前後、確認面からの深さ40 cmを測る。断面形態はナベ状を呈している。覆土上層部から灰釉陶器片、弥生時代赤彩土器小片が散々的に出土している。詳細な所属時期は不明。

SD5・6 (第12・20図)

X11・12Y7～9グリッドに位置し、北西～南東方向に延びる溝状遺構であり、SD6がSD5を掘り込んでいる。SD5は、幅1.2～1.4 m前後、確認面からの深さ40 cmを測る。断面形態はナベ状を呈し、覆土内には小礫を多く含んでいる。SD6も、幅1.2～1.4 m前後、確認面からの深さ40 cm前後を測る。覆土上層からおもに遺物は出土しており、10世紀後半代を中心とする土師器坏（墨書土器含む)・小型甕片、古墳時代S字口縁甕片などが出土している。所属時期については、出土遺物が覆土上層に限らるため詳細は不明だが、10世紀後半段階まで機能していた可能性は高い。

SD7・8・9 (第5・6・12・20図)

これらは、第1トレンチおよび第2・3トレンチ北端部で確認された旧流路跡である。東方から西方へ流下していると思われ、SD7はその南端の一部、SD8もその北端の一部を検出したにすぎず、SD9は幅

約 13 mを測る。いずれの旧流路も表土下約 30 cm前後で、拳大から人頭大ほどの礫を多量に含む砂礫層が露出し、SD9 ではその内部で幾たびか流路を変更している状況が看取でき、かなりの水流があったことがうかがわれる。出土遺物は少ないが、SD9 から 8 世紀後半代および 9 世紀前半代の土師器が出土しており、次節の遺構外出土遺物で掲載している。

第 4 節　遺構外出土遺物（第 20・21 図）

1 ～ 3 は、SD9 から出土した土師器坏片である。1・2 は 9 世紀前半代の土師器坏で、1 の底部外面には墨書がみられるが判読不可能。3 は 8 世紀後半代の土師器坏底部破片で、外面には刻書がみられるが、これも判読不可能。4 ～ 8 は、3 トレンチ出土の土師質土器片、染付、瓦片である。9 ～ 15 は、3 トレンチ出土の土師器坏・甕、土師質土器片、古墳時代の S 字口縁甕片である。

第 5 節　試掘調査出土遺物（第 22・23 図）

ここでは、試掘調査時に出土した主な遺物についてトレンチごとに紹介しておく。1・2 は試掘 B トレンチ出土で、SD9 に伴うかどうか不明だが、摩滅がほとんどみられない。1･2 はロクロ整形の土師器甕で、接合接点は見出せなかったが、両者は同一個体だと思われる。ロクロ整形の土師器甕の中心的な分布域は、旧巨麻郡にあり、8 ～ 9 世紀代に盛行する。八代郡域での出土事例は珍しく、地域間の交流を考えるうえで貴重な資料と言えよう。3・4 は試掘 C トレンチ出土の灰釉陶器片と須恵器短頸壷片である。トレンチの設定位置から旧流路内出土だと思われる。5･6 は試掘 E トレンチ、7 は試掘 F トレンチ出土の須恵器蓋・甕、内面黒色処理を施した土師器椀である。これらは本調査第 2 トレンチ X9 ～ 14Y18 ～ 23 グリッドあたりに位置する。8 ～ 27 は、試掘 G トレンチ出土遺物で、出土位置は本調査 SI7 検出範囲に重なっている。27 の打製石斧を除いて、ほぼすべて SI7 に伴うものであろう。この中で 24 の灰釉陶器椀は、高台部付け根部分に 3 箇所に焼成前の穿孔を施しており、さらに底部内面は磨られたような痕跡があり、その用途が問題となろう。

28 ～ 30 は、試掘 H トレンチ出土の古墳時代の S 字口縁甕および壷片である。28 は小型の S 字口縁甕であり、祭祀等に使用された可能性が考えられる。本調査では調査区は設定されなかったが、今回の調査地の東側に当該期の遺構群が存在する可能性が高い。

第V章　まとめ

これまでの報告のとおり、今回の町屋遺跡の発掘調査では、奈良時代および平安時代の竪穴建物跡を中心とする遺構群が検出された。出土した土器群の年代観から、各竪穴建物跡の詳細な時期をみると、8世紀前半代が1棟（SI1）、8世紀後半代1棟（SI2）、9世紀末～10世紀初頭2棟（SI3・4）、11世紀末～12世紀初頭3棟（SI5・6・7）、計7棟である。しかし部分的な調査であったため、集落の広がりや遺構群の変遷や展開といった集落の全体像を把握することは難しい。よってここでは、今回検出された竪穴建物について取り上げ、そこからみえる遺跡の特質についてふれてみたい。

建物遺構から町屋遺跡における特質を考えるうえで、一つの手がかりになるのが、棚状施設をもつSI3号竪穴建物跡（以下、SI3とする）である。SI3はすでに報告したとおり、第3トレンチ北端部分で、SI2・4と重複して検出されている。出土土器の年代から、9世紀末～10世紀初頭に所属するものと考えられる。各竪穴の新旧関係は出土遺物の年代から、SI2の上部を貼って構築していると思われるが、SI4とは出土土器の年代では時間差はあまりなく不明瞭である。

SI3は、カマドを付設する東壁が調査区外にかかり、カマドも全体の半分程度しか検出できず、煙道部は確認できていない。棚状施設は、そのカマド右袖に取り付くかたちで、竪穴部壁内側に構築されているものだろう。2～3層から成る盛土で構築されており、おそらく竪穴部内部に構築されるタイプのものであろう。大半が調査区外にかかり検出面が狭かったため、硬化面などを把握することができず掘り下げてしまい、断面観察のみの結果となってしまったことが悔やまれる。断面観察では、カマド構築土と同じような褐灰色砂質土を床面上約15㎝水平に盛り上げている。さらにその上面には、「大」と記した墨書された土師器坏がやや傾いているものの正位で出土している。

この墨書土器は、単に不要品として置き去りにされた遺棄遺物ではなく、墨書土器の性格から鑑み、祭祀行為の痕跡とみてよかろう。カマドは部分的検出ながら、袖石と思われる扁平な礫が、カマド左脇床面に遺棄されており、カマド廃絶に係る破壊行為も想定できるため、この墨書土器もそれと関連する遺物として積極的に捉えておきたい。

棚状施設などの、生活施設を伴う竪穴建物跡は、近年山梨県内でも検出事例が増加している。桐生直彦氏によると（桐生2005）、古代甲斐国における山梨・八代・巨麻・都留という旧郡単位では、これまで巨麻郡域を中心に検出されていることが指摘されている。しかし未報告事例も合わせると巨麻郡の他、山梨郡内など他郡でもみられることから、棚状施設をもつ竪穴建物跡が古代甲斐国全域に存在していることも予測できる。ただ、当該期の竪穴建物跡全体の検出数に対しての棚状施設をもつ竪穴建物跡検出数の割合が、竪穴総検出数の数％という状況は、何らかの特殊性を有するものと考えられる。桐生氏は、当該竪穴建物跡の全国集成を試みたうえで、それが検出されている遺跡の特徴を分析し、その結果、手工業生産に関わる集団の遺跡である可能性を指摘されている。甲斐国内の事例も、桐生氏の指摘から大きくはずれることはない。

甲斐国内において旧巨麻郡域に検出事例の偏りがみられる一つの背景として、馬匹生産やその他手工業生産が盛んな地域であることがあげられる。こうした生産に携わった技術者集団が棚状施設をもつ竪穴建物の建築技術を持ち合わせていたと推測することができる。しかし山梨郡内でも、甲斐国分僧尼寺の造営・維持・経営に関わる集落を中心に検出されており、当該集落にも手工業生産集団が集住していた可能性が強く、彼らと建築技術との関係が注目される。

一方、町屋遺跡に目を転じると、町屋遺跡周辺には、郡家クラスの付設される建物現模をもつ掘立柱建物跡が検出された、旧八代町役場庁舎、現在の笛吹市役所八代支所が所在する堀ノ内遺跡や、甲斐国分尼寺出土の瓦と同笵とされる瓦や、8世紀代の塑像（薬師如来）が発見されている瑜伽寺などがあり、郡家および郡家附属寺院などが存在したと思われる地域に町屋遺跡は属している。特に堀ノ内遺跡では、6世

紀後半、7世紀前半～8世紀中頃まで継続的に集落が営まれた後、一旦廃絶し、9世紀中頃以降再び集落が営まれはじめ、10世紀以降隆盛する集落がみられ、堀ノ内遺跡のこうした集落の展開が、郡家施設の造営・廃絶の状況を間接的に物語っている可能性が高い。

また、瑜伽寺出土の甲斐国分尼寺同笵瓦については、国分寺との有機的な関連が強くうかがわれ、単に郡家附属寺院といった性格の他、国分寺を中心とした仏教信仰のネットワークの一つとしてその性格を変化させていった可能性も考えられる。例えば、「定額寺」といった官寺の一つとして当該地域に存在した可能性も考えられよう。甲斐国における「定額寺」については文献史料も少なく、その実態や存在すらあまり知られていない。仮に郡家附属寺院から官寺へと変化したという状況が捉えられれば、それは国府と国分僧尼寺造立に伴う八代郡家移転問題とも絡んでくると思われ、今後のさらなる考古学的な資料の蓄積が期待される。

町屋遺跡をはじめとする当該期の周辺集落は、こうした官衙・寺院施設の経営や維持を支えた集落であったことは十分想像できる。町屋遺跡SI3の出土遺物の中に、ウルシ状付着物がみられる土師器坏が数点あるが（第15図SI3-1他）、それらは手工業生産に携わる集団の存在を想起させるもので、郡家との関連を考えるうえで興味深い。

以上簡単に、8世紀前半代から10世紀初頭段階を中心に町屋遺跡の様相の一端を述べてきた。10世紀初頭以降、次に遺構としてみられるのは11世紀末段階からである。10世紀末から12世紀にかけて、行政区画の再編や諸勢力による新たなる開発や荘園の成立など、さまざまな動向がみられる時期でもある。11世紀末から12世紀初頭段階の考古資料は、近年、国府周辺地域でも増加している。古代の八代郡域や山梨郡域の地表層には条里型土地割が広く展開しているが、詳細な発掘調査がおこなわれていないため、その施工時期は不明であるが、9世紀中頃から10世紀以降、集落が増加する背景には、新たな開発領主による耕地拡大のための条里開発という背景も考えられる。極めて興味深い傾向であるが、今しばらく資料の蓄積を待って検討を試みたい。

最後に、棚状施設をもつ竪穴建物跡をめぐっては、竪穴建物におけるさまざまな生活施設の存在が、近年、調査担当者のあいだでも認識され、その調査事例も増加してきた。棚状施設は、地山面の掘り残しで構築される場合は、比較的検出されやすいものの、盛土構築の場合、床面のように踏み固められることが少ないため、硬化面が形成されにくく、さらに完形土器などの出土遺物を伴わない場合はさらに見逃しやすい遺構である。竪穴建物跡の土層観察用セクションベルトの設定段階から、単に十文字ではなく、その存在を考慮してカマド両脇にセクションベルトを設定するのも有効であろう。古代の竪穴建物跡は、柱穴や貯蔵穴、壁溝、カマドなどの有無が判明すればいいのではない。さまざまな施設の存在を想定し、目的意識をもって調査にあたらなければ、本来あるモノが無いという事態に陥りかねない。今後も目的意識をもって調査に臨みたい。

末筆ではあるが、極寒の中、現場作業にあたっていただいた作業スタッフをはじめ、ご指導をいただきました各関係諸機関に厚く御礼を申し上げたい。

【参考文献】

桐生直彦　2005『竈をもつ竪穴建物跡の研究』六一書房
山梨県　2004『山梨県史 通史編1 原始・古代』
八代町教育委員会　1990『遺跡詳細分布調査報告書』八代町埋蔵文化財調査報告書第7集
山梨県教育委員会　1995『山梨県古代官衙・寺院跡詳細分布調査報告書』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第106集

第１表　町屋遺跡 SK（土坑・ピット）一覧表

※数値における（　）＝現存値／［　］＝推定値を示す

SK No.	挿図番号	位置（地区・Grid等）	重　複	形　状	長　軸 m	短　軸 m	深　さ m	出土遺物／備　考
SK1	第6図	X20・21Y23・24	SI1	楕円形	1.05	(0.3)	0.4	SI1を掘り込む
SK2	第10図	X13・14Y22・23	なし	円形か	1.34	(0.77)	0.64	土師器坏片・縄文後期土器片出土
SK3	第10図	X13・14Y24	なし	楕円形	1.34	1.14	0.58	打製石斧出土
SK4	第10図	X12・13Y24・25	なし	楕円形か	1.22	(0.45)	0.18	
SK5	第10図	X11～13Y24	なし	楕円形か	2.36	(1.08)	0.72	縄文後期土器片出土
SK6	第11図	X11Y21・22	SD1	楕円形か	0.65	(0.46)	0.55	SD1を掘り込む
SK7	第11図	X10Y21・22	SD1	楕円形	0.91	0.76	0.49	SD1が上部に構築、縄文前期土器片出土
SK8	第11図	X9Y21	なし	楕円形か	0.90	0.21	0.31	
SK9	第11図	X9Y20	SD2	円形か	0.67	(0.34)	0.67	SD2を掘り込む
SK10	第8図	X10Y13・14	SI6	楕円形か	1.01	(0.6)	0.61	SI6を掘り込む、土師質土器片出土
SK11	第8図	X9Y17	SI5	円形か	0.55	(0.37)	0.49	SI5を掘り込む、上面に扁平礫あり、土師器甕片・須恵器甕片出土
SK12	第8図	X10Y14	SI6	楕円形か	(0.82)	(0.24)	0.44	SI6を掘り込む
SK13	第8図	X10Y14	SI6	楕円形	0.78	0.57	0.44	SI6との新旧関係不明瞭、灰釉陶器椀片出土
SK14	第8図	X9・10Y14	SI6	楕円形か	(1.08)	(0.75)	0.28	SI6の床下土坑か、土師質土器片・甕片・灰釉陶器椀片出土
SK15	第8図	X10Y14・15	SI6	楕円形か	0.87	(0.46)	0.25	SI6の床下土坑か
SK16	第12図	X12・13Y5・6	なし	楕円形か	(0.78)	(0.77)	0.50	覆土中に礫を多く含む、土師器坏および蓋片出土
SK17	第12図	X12・13Y5・6	SK18	楕円形	0.57	0.56	0.49	SK18を掘り込む
SK18	第12図	X12・13Y5・6	SK17	楕円形	0.50	[0.46]	0.39	
SK19	第8図	X9Y14・15	SI6	楕円形か	0.71	(0.35)	0.41	土師器甕片出土
SK20	第8図	X9・10Y14・15	SI6	楕円形か	0.9	0.74	0.27	SI6の床下土坑か
SK21	第9図	X10Y12	SI7	楕円形か	(0.7)	(0.47)	0.33	SI7の床下土坑か、土師質皿多数出土
SK22	第9図	X10・11Y11・12	SI7・SK23	楕円形か	1.45	(0.75)	0.22	SI7の床下土坑か、土師質皿片・縄文中期土器片出土
SK23	第9図	X11Y11	SI7・SK22	楕円形か	(0.35)	(0.34)	0.20	SI7の床下土坑か
SK24	第9･12図	X11Y9・10	SK25・26	楕円形か	(0.55)	(0.4)	0.26	
SK25	第9･12図	X11Y9	SK24・26	楕円形か	0.72	(0.36)	0.27	
SK26	第9･12図	X11Y9	SK24・25・27・29・43	楕円形か	(0.37)	0.57	0.22	
SK27	第9･12図	X11Y9・10	SK26・41～43	楕円形か	(0.6)	(0.44)	0.25	
SK28	第9図	X10・11Y10	SK40～42	楕円形か	0.39	(0.25)	0.45	
SK29	第9･12図	X11Y9	SD6、SK26・43	楕円形か	(0.63)	(0.34)	0.35	
SK30	第12図	X11Y8・9	SD6	楕円形	0.47	0.4	0.45	
SK31	第12図	X11・12Y8	SD6	楕円形か	0.48	(0.4)	0.39	土師質土器坏出土
SK32	第12図	X12Y7	なし	楕円形	0.27	0.23	0.28	柱穴状の土層堆積状態を示す
SK33	第9図	X11Y10・11	SI7、SK34・35	楕円形か	0.75	(0.35)	0.27	SI7の床下土坑か
SK34	第9図	X11Y10	SI7、SK33・45	楕円形か	(0.7)	(0.45)	0.19	SI7の床下土坑か
SK35	第9図	X10・11Y10・11	SI7、SK33・36	楕円形か	(0.55)	0.58	0.18	SI7の床下土坑か、底面に礫
SK36	第9図	X10・11Y10・11	SI7、SK35・37・38	楕円形か	0.92	0.5	0.2	SI7の床下土坑か
SK37	第9図	X10・11Y10	SI7、SK38	楕円形か	(0.40)	0.42	0.44	
SK38	第9図	X10Y10	SI7、SK36・37・39	楕円形か	(0.40)	0.33	0.22	SI7の床下土坑か
SK39	第9図	X10・11Y10	SI7、SK38	楕円形か	(0.51)	0.5	0.33	
SK40	第9図	X10・11Y10	SI7、SK28・44	楕円形か	(0.25)	0.3	0.20	
SK41	第9･12図	X11Y10	SK27・28・42	楕円形か	(0.33)	(0.21)	0.18	
SK42	第9･12図	X10・11Y9・10	SK27・28・41	円形か	0.29	(0.16)	0.38	SI7に伴うピットか不明
SK43	第9･12図	X11Y9	SK26・27・29	楕円形か	(0.44)	(0.4)	0.34	SI7の床下土坑か
SK44	第9･12図	X11Y10	SK40	円形	0.22	0.20	0.14	
SK45	第9図	X11Y10	SI7、SK34	楕円形か	0.37	0.33	0.24	
SK46	第9図	X10Y11	SI7	楕円形か	(0.45)	(0.33)	0.18	SI7の床下ピットか、撹乱に破壊される
SK47	第8図	X10Y13	SI6	楕円形	0.67	0.56	0.28	SI6に伴う床下土坑か
SK48	第8図	X10Y13	SI6	楕円形	0.36	0.25	0.12	SI6に伴う柱穴か

第２表　町屋遺跡出土土器観察表

出土地点	図版	番号	種 別	器 種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎 土	備 考
S11	第13図	1	土師器	坏	(14.4) ・ (10.5) ・ 4.5	口縁～底	ロクロナデ、底部静止糸切り、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密（白・黒・赤色粒、小礫）	底部外面刻書あり、内外面スス状ヨゴレやや顕著、底部端部が帯状に摩耗
S11	第13図	2	土師器	坏	— ・ (11.0) ・ —	体～底	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	橙色	密（白・黒・赤色粒）	内画面摩滅やや顕著
S11	第13図	3	土師質	柱状高台坏か皿	— ・ (6.1) ・ —	高台部	ロクロナデ、回転糸切り		明赤褐色	密（白・黒・赤色粒）	内画面摩滅顕著、内面器面剥離
S11	第13図	4	土師器	小型甕	(15.0) ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	赤褐色	やや粗（白・黒・赤色粒）	内画面摩滅顕著
S11	第13図	5	土師器	甕	— ・ (11.0) ・ —	底部	ナデ、底部木葉痕	ナデ	褐色	やや粗（白・黒・赤色粒）	底部外面白色粘土付着顕著
S11	第13図	6	土師器	甕	— ・ — ・ —	頸部	ハケメ、ナデ	ハケメ	にぶい褐色	密（白・黒・赤色粒）	内外面摩滅やや顕著
S11	第13図	7	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	にぶい褐色	密（白・黒・赤色粒）	内外面摩滅やや顕著
S11	第13図	8	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ、ナデ	明赤褐色	やや粗（白・赤色粒、雲母）	内画面摩滅やや顕著
S11	第13図	9	須恵器	甕	—・ (9.0) ・—	底部	タタキ、ヘラケズリ	ナデ	灰色	密（白・黒色粒）	内画面摩滅顕著
S12	第13図	1	土師器	坏	(13.4) ・8.0・5.7	口縁～底	ロクロナデ、横位ミガキ、底部ヘラケズリ後ミガキ	ロクロナデ、体部・みこみに暗文あり	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	底部外面の端寄りに墨書あり「羽」、墨書はカスレあるが鮮明、土器は丁寧なつくり、破片の中に内外が二次的に黒色化したものあり
S12	第13図	2	土師器	坏	(15.4) ・— ・ —	口縁～体部	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ヘラケズリ、ミガキ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	体部内面に刻書あり、土器は丁寧なつくり
S12	第13図	3	土師器	坏	(11.6) ・— ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色	密（白・黒・赤色粒）	内外面ヨゴレやや顕著
S12	第13図	4	土師器	坏	(14.6) ・— ・ —	口縁部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色	密（白・黒・赤色粒）	体外墨書あり、正位か、墨痕比較的鮮明、内面器面剥離
S12	第13図	5	土師器	皿	— ・ — ・ 5.2	底部	ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密（白・黒・赤色粒）	体外墨書あり、正位、墨痕薄い、内外面ヨゴレ顕著
S12	第13図	6	土師器	坏	— ・ — ・ —	体部	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ、ミガキ	橙色	密（白・黒・赤色粒）	内外面摩滅やや顕著
S12	第13図	7	土師器	皿か	— ・ — ・ (4.0)	底部	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密（白・黒・赤色粒）	内面摩滅やや顕著
S12	第14図	8	土師器	皿	— ・ — ・ (6.2)	底部	ヘラケズリ、回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	密（白・黒・赤色粒）	内面ヨゴレやや顕著
S12	第14図	9	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ — ・ —	高台部	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい黄橙	密（白・黒・赤色粒）	内画面の変色・ヨゴレ顕著
S12	第14図	10	土師器	坏か	— ・ — ・ —	体部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色	密（白・黒・赤色粒）	体外墨書あり、正位、墨痕比較的鮮明
S12	第14図	11	土師器	坏	— ・ (8.0) ・ —	底部	ヘラケズリ	ロクロナデ、黒色処理	橙色	やや粗（白・黒・赤色粒）	外面ヨゴレ顕著、内面黒色化およびウルシ状付着物あり
S12	第14図	12	須恵器	坏	(9.2) ・ (6.0) ・ 2.8	口縁～底	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	灰色	密(赤・白・黒色粒子)	外面摩滅やや顕著
S12	第14図	13	須恵器	坏	(14.0) ・— ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白色	密(赤・白・黒色粒子)	内外面スス状ヨゴレ顕著
S12	第14図	14	須恵器	坏	— ・ — ・ (8.0)	底部	ロクロナデ、ヘラケズリ、回転糸切り	ロクロナデ	灰色	密(赤・白・黒色粒子)	外面に火襷痕、内面スス状ヨゴレ顕著
S12	第14図	15	灰釉陶器	椀	(17.3) ・— ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白色	密(赤・白・黒色粒子)	内外面とも摩滅・摩耗みられない
S12	第14図	16	土師器	甕	(16.8) ・— ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ハケメ	褐色	密（金色雲母、白・赤・黒色粒子）	内外面摩滅やや顕著
S12	第14図	17	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁部	ハケメ・ナデ	ハケメ	橙色	やや粗（白・黒・赤色粒）	内画面摩滅顕著
S12	第14図	18	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁部	ハケメ・ナデ	ナデ	明赤褐色	密（金色雲母、白・赤・黒色粒子）	二次焼成強く受ける
S12	第14図	19	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	明赤褐色	密（金色雲母、白・赤・黒色粒子）	二次焼成強く受け変色顕著、内面の摩滅はあまり顕著でない
S12	第14図	20	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	灰褐色	密（金色雲母、白・赤・黒色粒子）	内外面スス状ヨゴレ顕著
S12	第14図	21	土師器	甕	— ・ — ・ (7.0)	底部	ハケメ、底部木葉痕？	ハケメ	にぶい赤褐色	やや粗（金色雲母、白・赤・黒色粒子）	外面荒れ顕著
S12	第14図	22	土師器	甕	— ・ — ・ (9.0)	胴部～底部	ハケメ、底部木葉痕	ハケメ、ナデ	明赤褐色	密(赤・白・黒色粒子)	外面二次焼成受け赤褐色化および器面の荒れ顕著、内面は外面に比べ摩滅はあまり顕著でない
S12	第14図	23	土師器	壺か	— ・ — ・ (11.0)	底部	ナデ、底部木葉痕	ナデ状のミガキ	橙色	密（白・赤・黒色粒子、小礫）	外面摩滅やや顕著
S12	第15図	24	須恵器	壺か	(13.0) ・— ・ —	口縁部	ロクロナデ、自然釉付着	ロクロナデ	灰色	密（白色粒子）	内外面摩滅やや顕著
S12	第15図	25	須恵器	壺か	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ、当て具痕	橙	密(赤・白・黒色粒子)	内外面ヨゴレやや顕著
S12	第15図	26	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	灰オリーブ色	密(白・黒色粒子)	内外面スス状ヨゴレ顕著
S12	第15図	27	須恵器	壺か	— ・ — ・ —	胴部	タタキ、ナデ	ナデ	褐灰色	やや粗(白・黒色粒子)	内外面とも摩滅・摩耗みられない
S12	第15図	28	須恵器	擂鉢	— ・ — ・ —	体部	ナデ	ナデ、櫛歯条線	灰色	密(白・黒色粒子、砂粒)	内外面摩滅やや顕著
S13	第15図	1	土師器	坏	(15.8) ・4.8 ・4.8	口縁～底部	ロクロナデ、ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい褐色	密(赤・白・黒色粒子)	体外刻書あり、刻みは極めて繊細、「大」を基本とする思われるが判読不可、倒位、内外面ウルシ状付着物・ヨゴレ顕著、特に内面が顕著
S13	第15図	2	土師器	坏	12.0 ・ 4.2 ・ 4.2	口縁～底部	ロクロナデ、ヘラケズリ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	体外墨書あり「大」、正位、墨痕極めて薄い、全体に端正なつくり、摩耗・摩滅ほとんどみられず
S13	第15図	3	土師器	坏	(13.8) ・ (6.4) ・5.1	口縁～底部	ロクロナデ、ヘラケズリ、底部回転糸切り	ロクロナデ	黄橙色	密(赤・白・黒色粒子、金色雲母)	内外面スス状ヨゴレやや顕著
S13	第15図	4	土師器	坏	(17.6) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい褐色	密(赤・白・黒色粒子)	内外面スス状ヨゴレ顕著
S13	第15図	5	土師器	皿	(12.6) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明黄褐色	密(赤・白・黒色粒子)	二次焼成を受け器面変色
S13	第15図	6	土師器	皿	(12.7) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密(赤・白色粒子)	内外面摩耗・摩滅あまりみられず
S13	第15図	7	土師器	坏	— ・ (9.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ、底部静止糸切り後ヘラケズリ	ロクロナデ、ミガキ、みこみ暗文あり	明赤褐色	密(赤・白・黒色粒子)	内外面の摩耗やや顕著
S13	第15図	8	土師器	坏	— ・ 6.4 ・ —	体部～底部	ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	内面ウルシ状付着物顕著、外面部分的にに器面剥落
S13	第15図	9	土師器	坏	— ・ (4.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	内面白色粘土付着顕著
S13	第15図	10	土師器	坏	— ・ (4.6) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	内外面ウルシ状付着物顕著
S13	第15図	11	土師器	坏	— ・ — ・ —	体部	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	体外墨書あり「大ヵ」、正位、墨痕極めて薄い、内外面ウルシ状付着物あり
S13	第15図	12	土師器	坏	— ・ — ・ —	体部	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	体外墨書あり「大ヵ」、正位、墨痕極めて薄い、二次焼成を受ける
S13	第15図	13	土師器	坏	— ・ — ・ —	体部	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐色	密(赤・白・黒色粒子)	体外墨書あり、正位だろう、墨痕薄い、二次焼成を受ける
S13	第15図	14	土師器	小型甕	(17.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、小礫)	内外面二次焼成を顕著に受ける
S13	第15図	15	土師器	小型甕	(16.8) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ	なで	にぶい赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	内外面二次焼成を顕著に受ける
S13	第15図	16	土師器	小型甕	— ・ (6.0) ・ —	胴部～底部	ナデ、底部木葉痕	ナデ	赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、小礫)	内外面二次焼成強く受ける
S13	第15図	17	須恵器	蓋	— ・ — ・ —	体部	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰色	やや粗(白・黒色粒子、小礫)	内面摩滅やや顕著
S13	第15図	18	須恵器	壺	— ・ — ・ —	胴部	回転ヘラケズリ、自然釉	ロクロナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子)	外面摩滅やや顕著

出土地点	図版	番号	種 別	器 種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎 土	備 考
S14	第16図	1	土師器	坏	(11.8) ・ 5.0 ・ 4.4	口縁～底部	ロクロナデ、ヘラケズリ、底部回転糸切り後ヘラケズリ	ロクロナデ	浅黄橙色	密(赤・白・黒色粒子)	内外面スス状ヨゴレ顕著だが、摩耗・摩滅あまりみられず
S14	第16図	2	土師器	坏	(12.0) ・ (5.0) ・5.0	口縁～底部	ロクロナデ、ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	内外面スス状ヨゴレ顕著だが、摩耗・摩滅あまりみられず
S14	第16図	3	土師器	坏	(13.7) ・5.6 ・ 4.9	口縁～底部	ロクロナデ、ヘラケズリ、底部t回転糸切り後ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	内面の黒色化は二次的なもの、破片断面も薄く黒色化、内外面の摩耗・摩滅はあまりみられず
S14	第16図	4	土師器	坏	14.2 ・ 5.4 ・ 5.1	口縁～底部	ロクロナデ、ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	内画面のヨゴレ顕著だが摩耗・摩滅はあまりみられず
S14	第16図	5	土師器	坏	14.4 ・ 5.6 ・ 5.2	口縁～底部	ロクロナデ、ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	器形に歪みあり、内画面のヨゴレ顕著だが摩耗・摩滅はあまりみられず
S14	第16図	6	土師器	坏	(14.6) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	内外面スス状ヨゴレやや顕著、内面カキメ状ロクロ痕
S14	第16図	7	土師器	坏	— ・ 6.6 ・ —	体部～底部	ロクロナデ、ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	体外墨書あり「大」、倒位、墨痕極めて薄い、口縁部を欠くが故意の打ち欠きか、内画面のヨゴレ顕著だが摩耗・摩滅はあまりみられず
S14	第16図	8	土師器	坏	— ・ (4.6) ・ —	底部	回転糸切り後ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	内画面のヨゴレ顕著だが摩耗・摩滅はあまりみられず
S14	第16図	9	土師器	坏	(14.6) ・6.0 5.0	口縁～底部	ロクロナデ、ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	ロクロナデ、黒色処理	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	体外のヘラケズリ方向一定せず、摩耗・摩滅あまりみられず
S14	第16図	10	土師器	高台坏	— ・ (7.9) ・ —	体部～底部	ロクロナデ、ケズリ出高台、底部回転ヘラケズリ	ロクロナデ、黒色処理、暗文状ミガキ	明赤褐色	密(赤・白・黒色粒子)	体外および底外刻書あり、外面の摩滅やや顕著、内面黒色処理を施し丁寧なミガキを施す
S14	第16図	11	土師器	皿	12.8 ・ 5.0 ・ 2.8	体部～底部	ロクロナデ、ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	体外墨書あり「大」、正位、墨痕薄い、内外面の摩耗・摩滅はあまりみられず
S14	第16図	12	土師器	皿	(12.3) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	にぶい橙色	密(赤・白・黒色粒子)	内外面スス状ヨゴレ顕著
S14	第16図	13	土師質	皿か	— ・ — ・ —	台状底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	やや粗(白・黒色粒子)	二次焼成を受け内外面の摩滅顕著
S14	第16図	14	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、小礫)	器厚やや薄手
S14	第16図	15	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	明赤褐色	密(赤・白・黒色粒子、金色雲母)	器厚やや厚手
S14	第16図	16	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	橙色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、小礫)	内画面摩滅顕著、器厚は厚手でつくりはやや粗雑
S14	第16図	17	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、金色雲母)	器厚厚手で内面摩滅顕著、外面に粘土付着
S15	第16図	1	土師質	皿	(10.4) ・ 2.9 ・ 2.0	口縁～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	やや粗(白・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著
S15	第16図	2	土師質	皿	(10.8) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	明褐色	密(赤・白・黒色粒子)	内外面ヨゴレ・摩滅やや顕著
S15	第16図	3	土師質	皿	(11.4) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	内面ヨゴレやや顕著
S15	第16図	4	土師質	皿か	— ・ (4.8) ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	内外面摩滅顕著
S15	第16図	5	土師質	皿か	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	明黄褐色	やや粗(白・黒色粒子)	二次焼成を受け内外面変色
S15	第16図	6	土師質	—	— ・ (6.0) ・ —	脚高高台部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色	やや粗(白・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著
S15	第16図	7	白磁	椀	(13.0) ・ — ・ —	口縁～体部	ナデ	ナデ	灰白色	密(白色粒子)	
S15	第16図	8	土師質	鍋		胴部	ナデ	ナデ	黒褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母)	
S16	第17図	1	土師質	皿	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	内外面摩滅あまりみられず
S16	第17図	2	土師質	皿か	— ・ — ・ —	台状底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著
S16	第17図	3	土師質	--	— ・ — ・ —	脚高高台部	ロクロナデ	ロクロナデ	明褐色	密(赤・白・黒色粒子)	内外面ヨゴレ・摩滅やや顕著
S16	第17図	4	土師質	鍋	— ・ — ・ —	胴部	ナデ	ナデ	にぶい褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、小礫)	内面の荒れ顕著
S16	第17図	5	灰釉陶器	椀	(13.8) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	内外面のヨゴレやや顕著
S16	第17図	6	青白磁	椀	(14.0) ・ — ・ —	口縁～体部	輪花文	ロクロナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	内外面のヨゴレやや顕著
S16	第17図	7	須恵器	甕か	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ、当て具痕	灰白色	密(白・黒色粒子)	内外面のヨゴレやや顕著
S16	第17図	8	須恵器	甕か	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	内外面の摩滅あまりみられず
S16	第17図	9	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	外面摩滅やや顕著
S16	第17図	10	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ、使用痕あり	灰色	密(白・黒色粒子)	内面部分的に磨れた使用痕あり、二次転用の可能性あり
S17	第17図	1	土師質	皿	9.3 ・ 4.6 ・ 2.0	ほぼ完形	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	器形の歪み顕著、口縁端部が一部折れ曲がる、成形段階の失敗作をそのまま焼成したかのよう、内外の器面には亀裂・ヒビが顕著
S17	第17図	2	土師質	皿	(8.6) ・ (4.2) ・2.1	口縁～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	内外面のヨゴレ顕著
S17	第17図	3	土師質	皿	9.8 ・ 4.4 ・ 2.1	ほぼ完形	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・黒色粒子)	二次焼成を受け器面変色、底部内外面に亀裂がみられ、つくりもやや粗雑
S17	第17図	4	土師質	皿	(11.5) ・ (5.4) ・2.3	口縁～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	二次焼成を受け器面変色・ヨゴレ顕著
S17	第17図	5	土師質	皿	10.2 ・ 6.5 ・ 2.0	完形	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	つくりは粗雑、内外面のスス状ヨゴレ顕著、口縁部の歪みの部分に粘土塊を無造作に貼り付けている
S17	第17図	6	土師質	皿	(10.4) ・ (5.4) ・2.5	口縁～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	やや粗(白・黒色粒子)	内面の摩滅・ヨゴレやや顕著
S17	第17図	7	土師質	皿	(15.6) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	内面摩滅やや顕著
S17	第17図	8	土師質	皿	— ・ 4.0 ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著
S17	第17図	9	土師質	皿	— ・ 4.2 ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	赤褐色	密(白・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著、二次焼成を受け器面変色、底部外面の粘土剥落
S17	第18図	10	土師質	皿	— ・ (4.1) ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	赤褐色	密(白・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著、二次焼成を受け器面変色
S17	第18図	11	土師質	皿	— ・ 5.6 ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	二次焼成を受け内面の変色非常に顕著
S17	第18図	12	土師質	皿	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	赤褐色	密(白・黒色粒子)	内外面摩滅顕著
S17	第18図	13	土師質	皿	— ・ 6.6 ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	内外面スス状ヨゴレ顕著、特に内面は二次焼成を受け器面にヒビ割れがみられる
S17	第18図	14	土師質	皿	— ・ 6.1 ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	底部内面摩滅顕著、二次焼成を受け器面も変色
S17	第18図	15	土師質	皿	— ・ 6.7 ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	二次焼成を受け内外面の変色やや顕著
S17	第18図	16	土師質	皿か	— ・ 4.2 ・ —	台状底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	内外面の摩滅あまりみられず
S17	第18図	17	土師質	皿か	— ・ 5.0 ・ —	台状底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	やや粗(白・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著
S17	第18図	18	土師質	皿か	— ・ (5.6) ・ —	台状底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	赤褐色	密(白・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著
S17	第18図	19	土師質	鍋	— ・ — ・ —	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面摩滅顕著
S17	第18図	20	陶器	壺か	— ・ — ・ —	口縁部	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ、灰釉	オリーブ灰色	密(白・黒色粒子)	
S17	第18図	21	弥生～古墳	甕	— ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ハケ状工具による口唇部刻み目	ハケメ	灰褐色	密(白・赤・黒色粒子)	
S17	第18図	22	古墳	S字口縁甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	
S17	第18図	23	弥生～古墳	壺か	— ・ — ・ —	頸部	ハケメ	ハケメ、ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	内外面摩滅やや顕著
SK1	第18図	1	土師器	坏	— ・ (5.0) ・ —	底部	器面剥落のため不明	暗文か	赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面器面剥落顕著

出土地点	図版	番号	種 別	器 種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎 土	備 考
SK1	第18図	2	弥生～古墳	壺か	— ・ — ・ —	底部	ナデ、ミガキ	ナデ	赤褐色	密(白・黒色粒子)	
SK2	第18図	1	土師器	坏	— ・ (5.7) ・ —	底部	回転糸切り後ヘラケズリ	ロクロナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著
SK2	第18図	2	縄文	深鉢	— ・ — ・ —	胴部	横位沈線	ナデ	暗褐色	密(白・黒色粒子、雲母)	内外面摩滅やや顕著
SK5	第18図	1	縄文	深鉢	— ・ — ・ —	胴部	横位沈線	ナデ	暗褐色	密(白・黒色粒子、雲母)	内面摩滅顕著
SK7	第18図	1	縄文	深鉢	— ・ — ・ —	口縁部	沈線	ナデ	暗褐色	密(白・黒色粒子、金色雲母)	内面摩滅顕著
SK7	第18図	2	縄文	深鉢	— ・ — ・ —	胴部	沈線	ナデ	にぶい黄褐色	密(白・黒色粒子、金色雲母)	内外面摩滅やや顕著、縄文時代前期諸磯b式期
SK10	第18図	1	土師器	坏	— ・ (7.4) ・ —	底部	回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	内外面器面剥落、縄文時代前期諸磯b式期
SK11	第19図	1	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	暗赤褐色	やや粗(白・黒色粒子)	内面摩滅顕著
SK11	第19図	2	須恵器	甕か	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	外面摩滅やや顕著
SK13	第19図	1	灰釉陶器	椀	(16.2) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	灰黄褐色	密(白・黒色粒子)	内外面ヨゴレ顕著、SK13出土破片と接合
SK14	第19図	1	土師質	皿か	— ・ 4.0 ・ —	底部	回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	内面摩滅やや顕著
SK14	第19図	2	灰釉陶器	椀	(14.2) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	浅黄橙色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面スス状ヨゴレやや顕著
SK14	第19図	3	土師器	小型甕	(12.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	外面スス状ヨゴレ顕著
SK16	第19図	1	土師器	蓋	(14.6) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面摩滅・ヨゴレやや顕著
SK16	第19図	2	土師器	坏	— ・ — ・ —	体部	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、暗文	暗褐色	密(白・赤・黒色粒子)	内面黒色化するが二次的なもの、割れ口断面も薄く黒色化している
SK19	第19図	1	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	にぶい橙色	密(白・黒色粒子、金色雲母)	外面摩滅やや顕著
SK20	第19図	1	青白磁	椀	— ・ — ・ —	口縁～体部	ナデ、ヘラケズリ、輪花文	ナデ	灰白色	密(黒色粒子)	内外面ヨゴレやや顕著
SK21	第19図	1	土師質	皿	9.2 ・ 4.5 ・ 2.3	ほぼ完形	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著、二次焼成を受け器面変色
SK21	第19図	2	土師質	皿	9.4 ・ 4.6 ・ 2.3	ほぼ完形	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	外面摩滅やや顕著、二次焼成を受け器面変色
SK21	第19図	3	土師質	皿	(9.4) ・ (4.2) ・ 2.1	口縁～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	摩耗・摩滅ほとんどみられず
SK21	第19図	4	土師質	皿	9.6 ・ 4.4 ・ 2.4	ほぼ完形	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	にぶい橙色	やや粗(白・黒色粒子)	体外に粘土小塊付着、内面摩滅やや顕著、二次焼成を受け器面やや変色
SK21	第19図	5	土師質	皿	9.9 ・ 4.4 ・ 2.1	ほぼ完形	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	摩耗・摩滅ほとんどみられず、二次焼成を受け器面やや変色
SK21	第19図	6	土師質	皿	(10.8) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	摩耗・摩滅ほとんどみられず、二次焼成を受け器面やや変色
SK21	第19図	7	土師質	皿	(12.0) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・黒色粒子)	内面二次焼成を受け変色顕著
SK21	第19図	8	土師質	皿	(14.4) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	内面摩滅やや顕著顕著
SK21	第19図	9	土師質	皿	(16.0) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・黒色粒子)	外面摩滅やや顕著顕著
SK21	第19図	10	土師質	皿	— ・ 4.0 ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著顕著
SK21	第19図	11	土師質	皿	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著顕著
SK22	第19図	1	土師質	皿	— ・ 4.0 ・ —	底部	回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著顕著、二次焼成を受ける
SK22	第19図	2	土師質	皿	— ・ 4.5 ・ —	底部	回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著顕著、二次焼成を受ける
SK22	第19図	3	土師質	皿	— ・ (4.6) ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著顕著
SK22	第19図	4	縄文	深鉢	— ・ — ・ —	胴部	横位・縦位集合沈線	ナデ	褐色	密(白・黒色粒子、雲母)	縄文時代前期末～中期初頭か
SK31	第19図	1	土師器	坏	(13.6) ・ 5.4 4.3	口縁～底部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色	密(赤・黒色粒子)	内外面スス状ヨゴレやや顕著
SD2	第20図	1	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	灰褐色	やや粗(白・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著
SD2	第20図	2	須恵器	壺か甕	— ・ — ・ —	胴部	ロクロナデ	ロクロナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子)	外面摩滅やや顕著
SD2	第20図	3	須恵器	壺か甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	内外面器面部分的に剥落
SD3	第20図	1	土師質	皿	(10.8) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著
SD3	第20図	2	土師質	皿	— ・ (4.0) ・ —	底部	回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著
SD3	第20図	3	土師質	--	— ・ (7.0) ・ —	脚高高台部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面摩滅やや顕著
SD3	第20図	4	灰釉陶器	椀	— ・ — ・ —	体部	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	内外面ヨゴレやや顕著
SD4	第20図	1	灰釉陶器	椀か	— ・ (7.0) ・ —	体部～高台部	ロクロナデ	ロクロナデ	灰黄色	密(白・黒色粒子)	底部内面に磨ったような二次的な使用痕跡がみられる
SD4	第20図	2	弥生～古墳	壺か	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ミガキ	ハケメ、ナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	内面摩滅やや顕著
SD4	第20図	3	弥生～古墳	壺か	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ナデ、赤彩	ナデ、ミガキ、赤彩	明赤褐色	密(白・黒色粒子、雲母)	内外面に赤彩痕跡
SD6	第20図	1	土師器	坏	(14.6) ・ (7.0) ・ 3.8	口縁～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	にぶい橙色	密(白・赤・黒色粒子)	底部内面スス状ヨゴレ顕著
SD6	第20図	2	土師器	坏	(13.8) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面摩耗・摩滅ほとんどみられず
SD6	第20図	3	土師器	坏	— ・ 5.0 ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	底部内面に墨痕あり、内外面スス状ヨゴレ顕著、割れ口の状況から口縁部は故意に打ち欠かれたよう
SD6	第20図	4	土師器	小型甕	(14.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ナデ	にぶい褐色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	内外面スス付着顕著
SD6	第20図	5	土師器	小型甕	— ・ (5.0) ・ —	胴部～底部	ハケメ、ナデ、底部木葉痕	ナデ	にぶい橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	内外面摩滅顕著
SD6	第20図	6	土師器	甕	— ・ — ・ —	底部	ナデ	ナデ	橙色	やや粗(白・黒色粒子)	二次焼成を強く受け摩滅も顕著
SD6	第20図	7	古墳	S字口縁甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ、ナデ	にぶい褐色	密(白・黒色粒子、金雲母)	外面摩滅顕著
SD6	第20図	8	古墳	S字口縁甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ、ナデ	赤褐色	密(白・黒色粒子、金雲母)	外面摩滅顕著
SD6	第20図	9	古墳	S字口縁甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ナデ	橙色	密(白・黒色粒子、金雲母)	外面スス付着顕著
SD6	第20図	10	古墳	S字口縁甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ナデ	褐色	密(白・黒色粒子、金雲母)	外面スス付着顕著
遺構外1トレ	第20図	1	土師器	坏	(10.8) ・ 6.4 3.7	口縁～底部	ロクロナデ、ヘラケズリ、底部回転糸切り後ヘラケズリ	ロクロナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	底外に墨書あり、判読不可だが「#」か、墨痕薄い、内外面摩滅顕著、特に内面は二次焼成を受けたためか器面の剥落が顕著で暗褐色に変色
遺構外1トレ	第20図	2	土師器	坏	(12.2) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面摩滅顕著
遺構外1トレ	第20図	3	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	ロクロナデ、底部内面まで暗文	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	底外刻書あり「×」、内外面摩滅顕著
遺構外2トレ	第20図	4	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部ヘラケズリ	ロクロナデ、ミガキ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面摩滅顕著
遺構外2トレ	第20図	5	土師質	皿か	— ・ 4.6 ・ —	底部	回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面摩滅・ヨゴレ顕著
遺構外2トレ	第20図	6	土師質	坏か皿	— ・ 6.4 ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	内面の摩滅やや顕著
遺構外2トレ	第21図	7	磁器	染付皿	— ・ (10.3) ・ —	体部～底部	高台欠損	--	白色	密(白・黒色粒子)	焼継ぎあり
遺構外3トレ	第21図	9	土師器	坏	(12.8) ・ — ・ —	口縁～体部	ロクロナデ	ロクロナデ	橙色	密(白・赤色粒子)	口縁部内外面に油煙付着顕著、灯芯痕跡明瞭
遺構外3トレ	第21図	10	土師器	坏	— ・ (5.4) ・ —	底部	回転糸切り後ヘラケズリ	ロクロナデ、暗文	にぶい橙色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面摩滅顕著
遺構外3トレ	第21図	11	土師質	皿か	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・黒色粒子、雲母)	内外面摩滅やや顕著
遺構外3トレ	第21図	12	土師器	小型甕	(14.4) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	赤褐色	密(白・黒色粒子、雲母)	内外面摩滅やや顕著
遺構外3トレ	第21図	13	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	赤褐色	密(白・黒色粒子、金雲母)	内外面摩滅顕著

出土地点	図版	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	備考
遺構外3トレ	第21図	14	古墳	壺か	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	内外面摩滅顕著
遺構外3トレ	第21図	15	古墳	S字口縁壺	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ナデ	橙色	密(白・黒色粒子、雲母)	内外面摩滅・ヨゴレ顕著
試掘Bトレ	第22図	1	土師器	壺	(21.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、小礫多)	内外面スス付着顕著、2と同一個体
試掘Bトレ	第22図	2	土師器	壺	— ・ — ・ —	胴部	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、小礫多)	内外面スス付着顕著、1と同一個体
試掘Cトレ	第22図	3	灰釉陶器	椀か	— ・ (8.0) ・ —	高台部	ロクロナデ	ロクロナデ	淡黄色	密(白・黒色粒子)	内外面ヨゴレ顕著
試掘Cトレ	第22図	4	須恵器	短頸壺	(14.6) ・ — ・ —	口縁～胴部	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	割口断面の摩滅顕著
試掘Eトレ	第22図	5	須恵器	蓋	— ・ — ・ —	つまみ～体部	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰オリーブ色	やや粗(白・黒色粒子、小礫)	内外面摩滅あまりみられず
試掘Eトレ	第22図	6	須恵器	壺	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ハケメ状ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	内外面摩滅あまりみられず
試掘Fトレ	第22図	7	土師器	椀	— ・ 6.0 ・ —	体部～高台部	ロクロナデ、底部回転糸切り後ナデ、付高台	黒色処理、ミガキ	橙色	密(白・黒色粒子)	内外面荒れ・摩滅顕著
試掘Gトレ	第22図	8	土師質	皿	9.4 ・ 4.4 ・ 2.4	ほぼ完形	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	S17に伴うものだろう、口縁部の一部に歪み、摩滅ほとんどみられないが内面のスス状ヨゴレやや顕著
試掘Gトレ	第22図	9	土師質	坏	(12.9) ・ (6.0) ・ 4.8	口縁～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	S17に伴うものだろう、二次焼成を受け内面および底部外面摩滅顕著
試掘Gトレ	第22図	10	土師質	坏	(14.0) ・7.0 4.0	口縁～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	S17に伴うものだろう、底部内面の打ち欠き痕跡顕著
試掘Gトレ	第22図	11	土師質	坏	13.4 ・ 6.4 ・ 3.8	口縁～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	S17に伴うものだろう、二次焼成を受け内面摩滅顕著
試掘Gトレ	第22図	12	土師質	坏	(14.4) ・7.0 4.4	口縁～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	S17に伴うものだろう、二次焼成を受け内面スス状ヨゴレ顕著
試掘Gトレ	第22図	13	土師質	杯状高台坏か皿	— ・ 7.6 ・ —	高台部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	S17に伴うものだろう、二次焼成を受け内面と底部外面スス状ヨゴレ・摩滅顕著
試掘Gトレ	第22図	14	土師質	皿か	— ・ 3.9 ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母)	S17に伴うものだろう、内外面摩滅やや顕著
試掘Gトレ	第22図	15	土師質	皿か	— ・ 4.3 ・ —	体部～底部	ヘラケズリ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	S17に伴うものか、内外面摩滅やや顕著
試掘Gトレ	第23図	16	土師器	坏か皿	— ・ 4.6 ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	S17に伴うものだろう、内外面摩滅あまり顕著でない
試掘Gトレ	第23図	17	土師質	坏か皿	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	S17に伴うものだろう、二次焼成を受け内外面摩滅顕著、底部外面繊維痕顕著
試掘Gトレ	第23図	18	土師質	坏か皿	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	ロクロナデ、底部回転糸切り	ロクロナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	S17に伴うものだろう、二次焼成を受け内外面摩滅顕著、底部外面繊維痕顕著
試掘Gトレ	第23図	19	土師器	置きカマド	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	S17に伴うものか、空気孔の痕跡わずかに残存、内面スス状ヨゴレやや顕著
試掘Gトレ	第23図	20	土師器	置きカマド	— ・ — ・ —	底部	ハケメ、ナデ	ハケメ、指頭痕	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	S17に伴うものか、二次焼成を受け内外面摩滅顕著
試掘Gトレ	第23図	21	土師器	鍋	(38.4) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母、小礫)	S17に伴うものだろう、内外面スス状ヨゴレ顕著
試掘Gトレ	第23図	22	須恵器	壺	(26.0) ・ — ・ —	口縁～頸部	ロクロナデ	ロクロナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	S17に伴うものだろう、内外面摩滅・剥落やや顕著
試掘Gトレ	第23図	23	須恵器	壺	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	にぶい赤褐色	密(白・黒色粒子)	S17に伴うものだろう、外面摩滅顕著、内面部分的に剥落
試掘Gトレ	第23図	24	灰釉陶器	椀	(18.3) ・9.2 8.9	口縁～高台部	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台	ロクロナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子、小礫少)	S17に伴うものだろう、つくりは厚手、底部内面に滑らかな磨面あり、高台部と体部の接合部に現存で3箇所の貫通孔あり
試掘Gトレ	第23図	25	灰釉陶器	壺	— ・ 12.6 ・ —	胴部～高台部	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、付高台	ロクロナデ	灰白色	やや粗(白・黒色粒子、雲母)	S17に伴うものだろう、胴部最大幅19.1cm、高台部端部の細かい欠け顕著
試掘Hトレ	第23図	28	古墳	小型S字口縁壺	(7.2) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ナデ	浅黄橙色	密(白・黒色粒子、雲母)	丁寧なつくり、ハケメは細かく繊細、摩滅痕もほとんどみられず
試掘Hトレ	第23図	29	古墳	S字口縁壺	(15.4) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、金雲母)	ハケメは粗い
試掘Hトレ	第23図	30	古墳	壺	— ・ 9.0 ・ —	胴部～底部	ミガキ、底部木葉痕	ミガキ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	底部外面に種子状圧痕

第３表　町屋遺跡出土土製品観察表

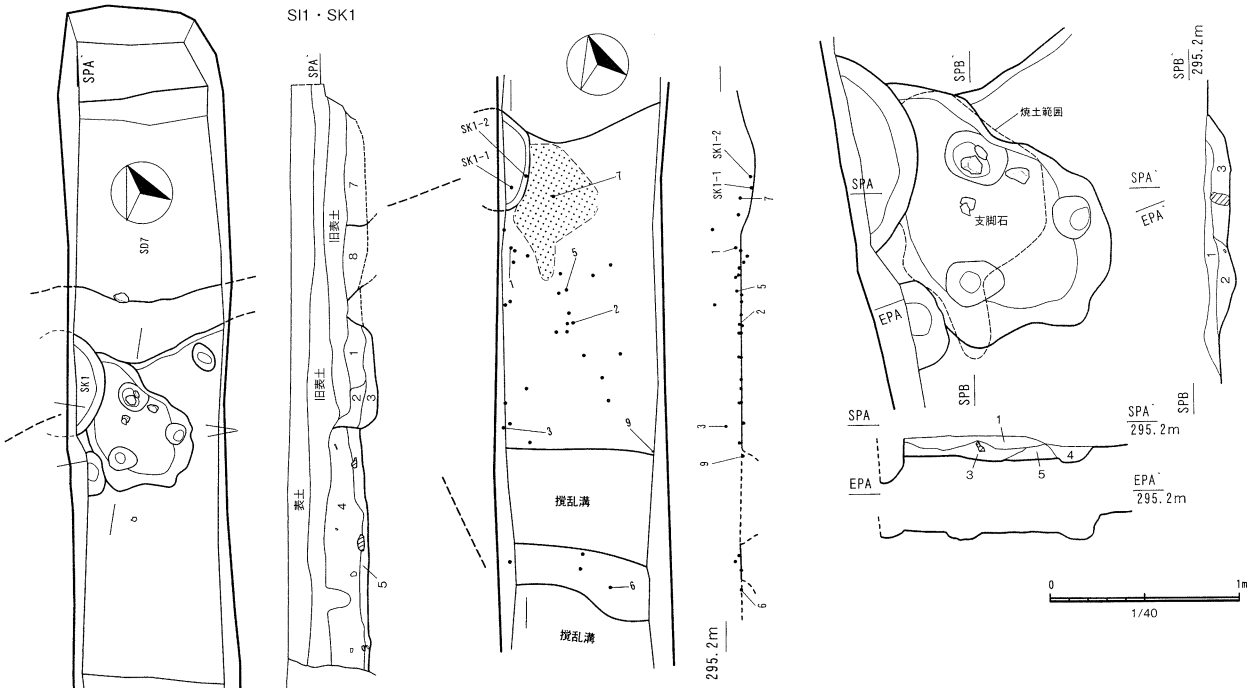
出土地点	図版	番号	分類	法量（cm）※（ ）は推定値・現存値				成形及び調整技法（内・裏）	成形及び調整技法（外・表）	胎土	焼成	色調	備考
				口径・長	底径・幅	器高・厚	重さ（g）						
S17	第18図	24	粘土塊	6.7	4.8	2.9	48	—	—	白・赤・黒色粒子	—	赤褐色	二次焼成を受け赤褐色化、植物繊維状の痕跡を含む
S17	第18図	25	粘土塊	4.7	3.7	2.0	24.5	—	—	白・黒色粒子	—	橙色	二次焼成を受け赤褐色化、植物繊維状の痕跡を含む
遺構外2トレ	第21図	8	平瓦	14.4	7.4	2.1	342	糸切り痕、平行タタキ	布目、ナデ	やや粗、白・赤・黒色粒子	良好	灰色	還元焔焼成、摩滅顕著

第４表　町屋遺跡出土金属製品観察表

出土地点	図版	番号	分 類	法量（cm）※（　）は推定値又は現存値				材　質	備　　考
				長	幅	厚	重量（g）		
試掘Gトレ	第23図	26	紡錘車	(16.0)	4.2	0.3	(21)	鉄	SI7に伴うものだろう

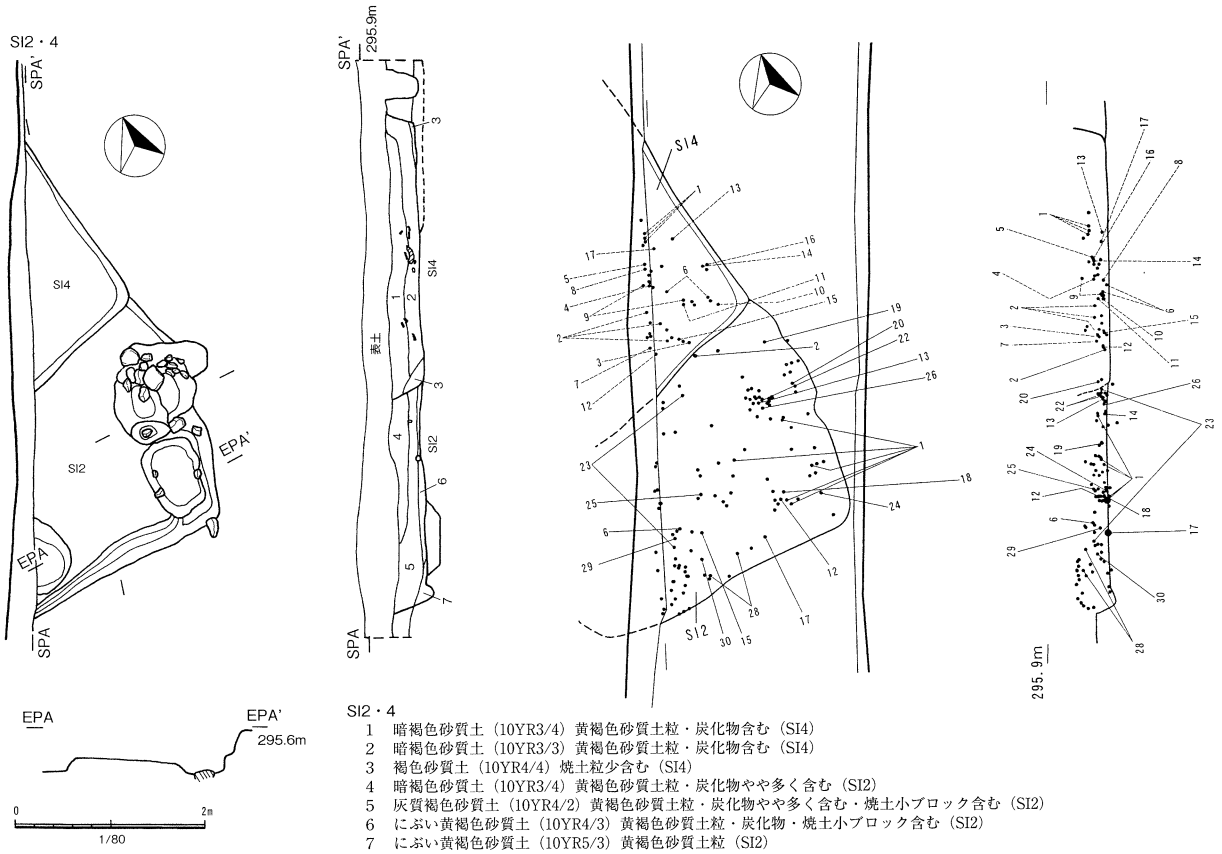
第５表　町屋遺跡出土石製品観察表

出土地点	図版	番号	分　類	長さ・幅・厚さ（cm）	重さ（g）	石　材	欠損状況	備　　考
SI2	第15図	29	凹石	11.1・7.2・3.2	470		一部欠け	磨面も部分的にみられる
SI2	第15図	30	石核片	2.6・2.0・1.5	9	黒曜石		
SK3	第18図	1	打製石斧	10.3・4.3・2.2	114			
試掘Gトレ	第23図	27	打製石斧	9.3・4.5・1.4	80			



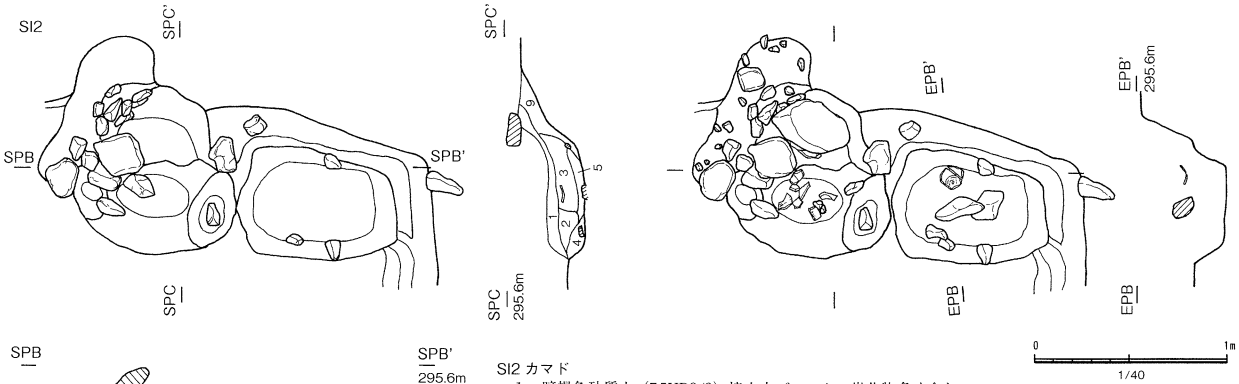
SI1・SK1
1 暗褐色砂質土（7.5YR3/3）焼土小ブロック・炭化物やや多く含む（SK1）
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）焼土小ブロック・炭化物やや多く含む（SK1）
3 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色砂質土ブロック多く含む（SK1）
4 黒褐色砂質土（7.5YR3/2）炭化物・焼土小ブロック含む（SI1）
5 暗褐色砂質土（10YR3/3）炭化物多く含む・焼土小ブロック含む（SI1）
6 褐色砂質土（10YR4/4）炭化物・焼土小ブロック含む（SI1）
7 褐色細砂～中砂（砂礫層）（10YR4/6）暗褐色土混じり（SD7）
8 褐色中砂（砂礫層）（10YR4/4）（SD7）

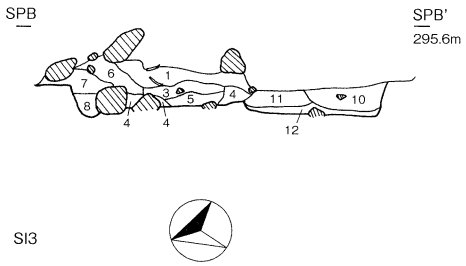
SI1 カマド
1 黒褐色砂質土（7.5YR3/2）炭化物・焼土小ブロック含む
2 黒褐色砂質土（7.5YR3/1）黄褐色砂質土混じり・焼土小ブロック・炭化物少量含む
3 にぶい赤褐色砂質土（5YR4/3）焼土少量含む・黄褐色粘質土混じり
4 黒褐色砂質土（7.5YR3/1）黄褐色砂質土混じり・炭化物少含む
5 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黒褐色砂質土混じり



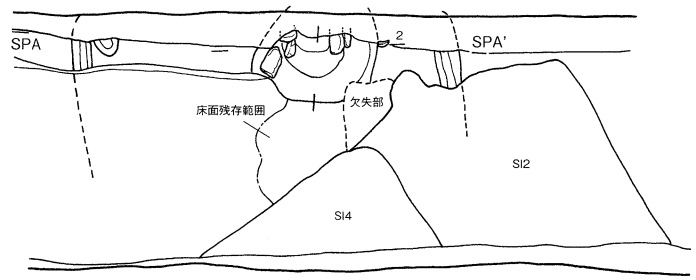
SI2・4
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色砂質土粒・炭化物含む（SI4）
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色砂質土粒・炭化物含む（SI4）
3 褐色砂質土（10YR4/4）焼土粒少含む（SI4）
4 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色砂質土粒・炭化物やや多く含む（SI2）
5 灰質褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色砂質土粒・炭化物やや多く含む・焼土小ブロック含む（SI2）
6 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色砂質土粒・炭化物・焼土小ブロック含む（SI2）
7 にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）黄褐色砂質土粒（SI2）

第６図　SI1・2・4号竪穴建物跡、SK1

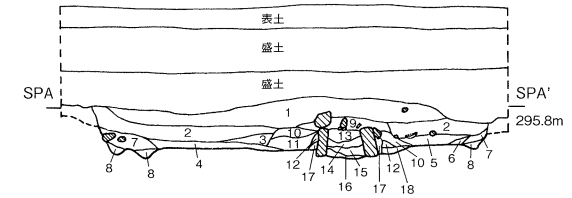


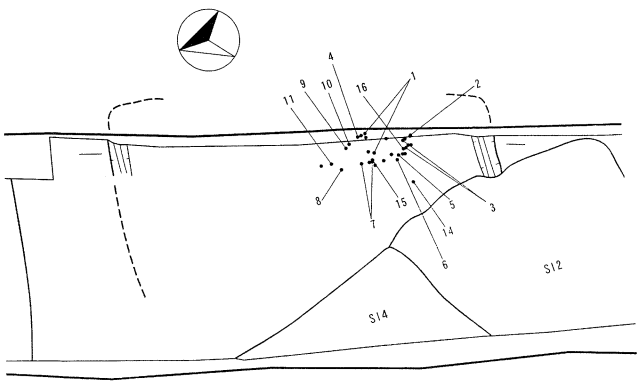


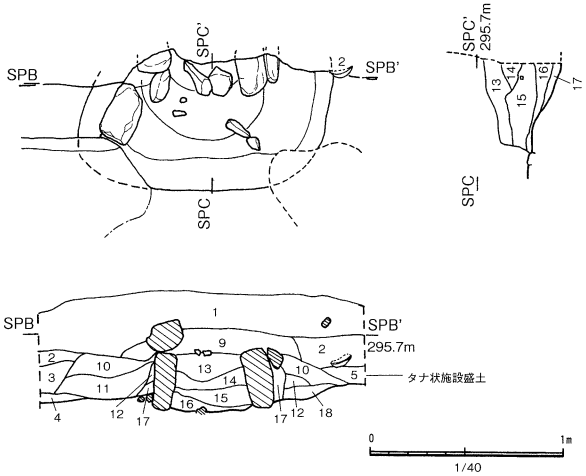
SI2 カマド
1 暗褐色砂質土（7.5YR3/3）焼土小ブロック・炭化物多く含む
2 褐色砂質土（7.5YR4/4）焼土多く含む・灰褐色粘質土ブロック含む
3 暗褐色砂質土（7.5YR3/4）焼土小ブロック・炭化物含む
4 褐色砂質土（7.5YR4/3）灰褐色粘質土小ブロック含む
5 褐色砂質土（10YR4/4）焼土粒子・炭化物粒含む
6 灰褐色砂質土（7.5YR4/2）灰褐色粘質土ブロック含む・炭化物粒・焼土粒含む
7 灰質褐色砂質土（10YR4/2）灰褐色粘質土ブロック含む・炭化物粒・焼土粒含む
8 灰質褐色砂質土（10YR5/2）炭化物・黄褐色砂質土混じり
9 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）粘土粒・炭化物粒含む
10 暗褐色砂質土（10YR3/4）焼土小ブロック・炭化物多含む
11 褐色砂質土（10YR4/4）焼土小ブロック・炭化物少含む
12 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）炭化物少含む

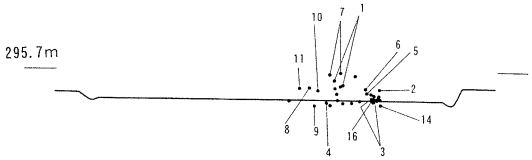


SI3（カマドも含む）
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）小礫・炭化物・焼土小ブロック含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）小礫やや多く含む・炭化物・焼土小ブロック含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/3）粘土粒・炭化物粒やや多い
4 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）炭化物・焼土小ブロック・小礫やや多く含む
5 褐灰色砂質土（10YR4/6）棚構築土
6 褐灰色砂質土（10YR4/1）棚構築土
7 褐色砂質土（10YR4/4）
8 黒褐色砂質土（10YR3/1）炭化物粒含む
9 褐色砂質土（7.5YR4/3）焼土ブロック・炭化物多含む（カマド）
10 灰褐色砂質土（7.5YR4/2）焼土ブロック・炭化物含む（カマド）
11 褐色砂質土（10YR4/4）焼土ブロック・炭化物多含む（カマド）
12 灰褐色砂質土（7.5YR4/2）しまり強い、焼土ブロック・炭化物多含む（カマド）
13 褐灰色砂質土（5YR4/1）焼土・炭化物含む、灰褐色粘質土ブロック含む（カマド）
14 暗赤褐色砂質土（5YR3/2）焼土・炭化物多く含む、灰褐色粘質土ブロック含む（カマド）
15 黒褐色砂質土（5YR3/1）焼土・炭化物含む（カマド）
16 にぶい赤褐色砂質土（5YR4/3）焼土・炭化物含む（カマド）
17 にぶい赤褐色砂質土（5YR4/4）粘土粒・炭化物粒・黄褐色砂質土ブロック含む（カマド）
18 褐色砂質土（7.5YR4/4）粘土粒・炭化物粒・黄褐色砂質土ブロック含む（カマド）

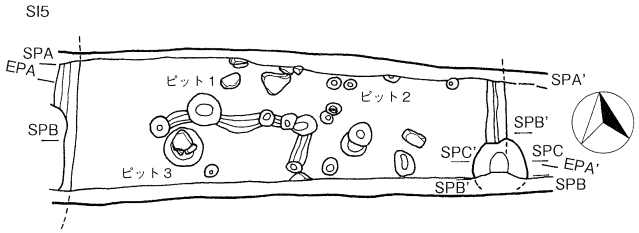


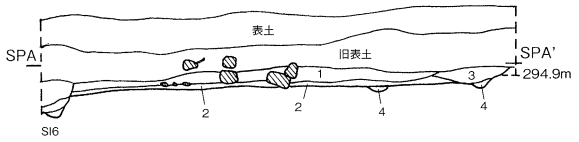




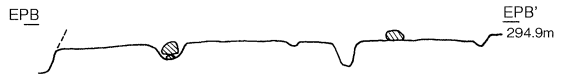


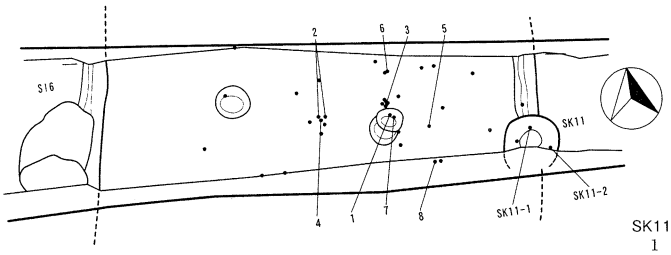
第７図　SI2・３号竪穴建物跡

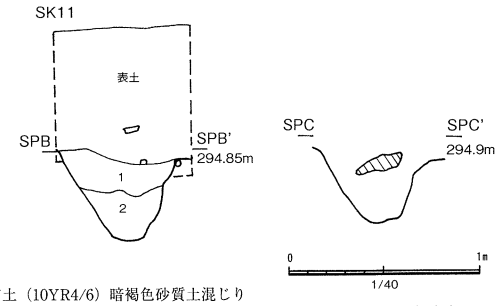




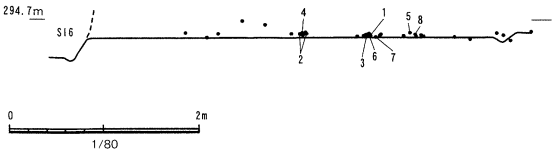
SI5 北面
1 褐色砂質土（10YR4/4）焼土小ブロック・炭化物少含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）焼土小ブロック・炭化物含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）焼土小ブロック・炭化物少含む
4 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）焼土小ブロック・炭化物少含む



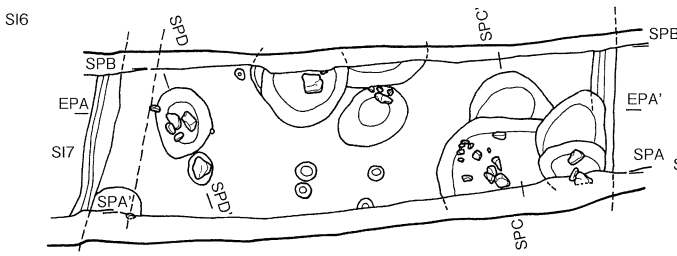




SK11
1 褐色砂質土（10YR4/6）暗褐色砂質土混じり
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色砂質土ブロック含む　炭化物・焼土粒少含む

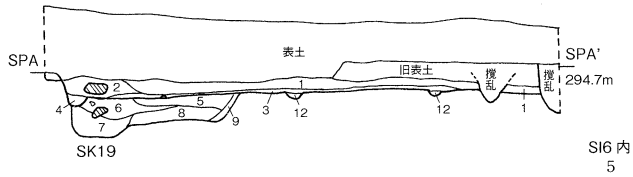


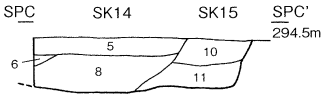
SI6 および SK14・15
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）焼土小ブロック・炭化物含む
2 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色砂質土ブロック・炭化物含む
3 褐灰色砂質土（10YR4/1）焼土＋炭化物・灰・混合土
4 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色砂質土ブロック多く含む
5 黒褐色砂質土（10YR3/2）炭化物・焼土小ブロックやや多く含む（SK14・19）
6 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）炭化物・焼土小ブロック含む（SK14・19）
7 黒褐色砂質土（10YR3/1）炭化物・焼土粒少含む（SK14・19）
8 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色砂質土ブロック多含む（SK14・19）
9 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）やや粘質・黄褐色砂質土ブロック・炭化物含む（SK14・19）
10 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）やや大きめの焼土ブロック、にぶい黄褐色粘質土ブロック含む
11 黒褐色砂質土（10YR3/2）焼土ブロック、にぶい黄褐色粘質土ブロック含む
12 黒褐色砂質土（10YR3/1）黄褐砂質土ブロック含む



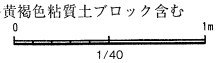
※SKNo. については、遺物分布図を参照

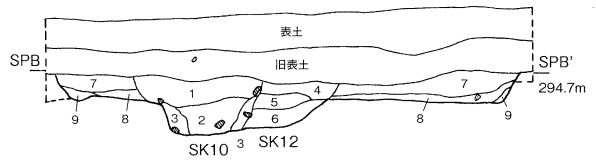
SI6 および SK10・12
1 暗褐色砂質土（10YR4/6）小礫多含む、粘土粒・炭化物粒含む（SK10）
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）炭化物粒含む、焼土小ブロック少含む（SK10）
3 褐色砂質土（10YR4/4）炭化物粒含む、焼土小ブロック少含む（SK10）
4 暗褐色砂質土（10YR3/3）炭化物やや多含む（SK12）
5 褐色砂質土（10YR4/6）暗褐色砂質土混じり（SK12）
6 暗褐色砂質土（10YR3/4）炭化物粒含む（SK12）
7 褐色砂質土（10YR4/4）小礫・炭化物粒含む
8 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）焼土粒・炭化物多含む
9 褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色砂質土ブロック含む

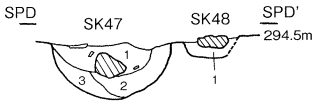




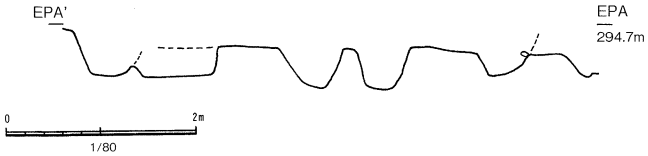
SI6 内 SK14・15
5 黒褐色砂質土（10YR3/2）炭化物・焼土小ブロックやや多く含む（SK14・19）
6 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）炭化物・焼土小ブロック含む（SK14・19）
7 黒褐色砂質土（10YR3/1）炭化物・焼土粒少含む（SK14・19）
8 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色砂質土ブロック多含む（SK14・19）
9 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）やや粘質・黄褐色砂質土ブロック・炭化物含む（SK14・19）
10 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）やや大きめの焼土ブロック、にぶい黄褐色粘質土ブロック含む
11 黒褐色砂質土（10YR3/2）焼土ブロック、にぶい黄褐色粘質土ブロック含む



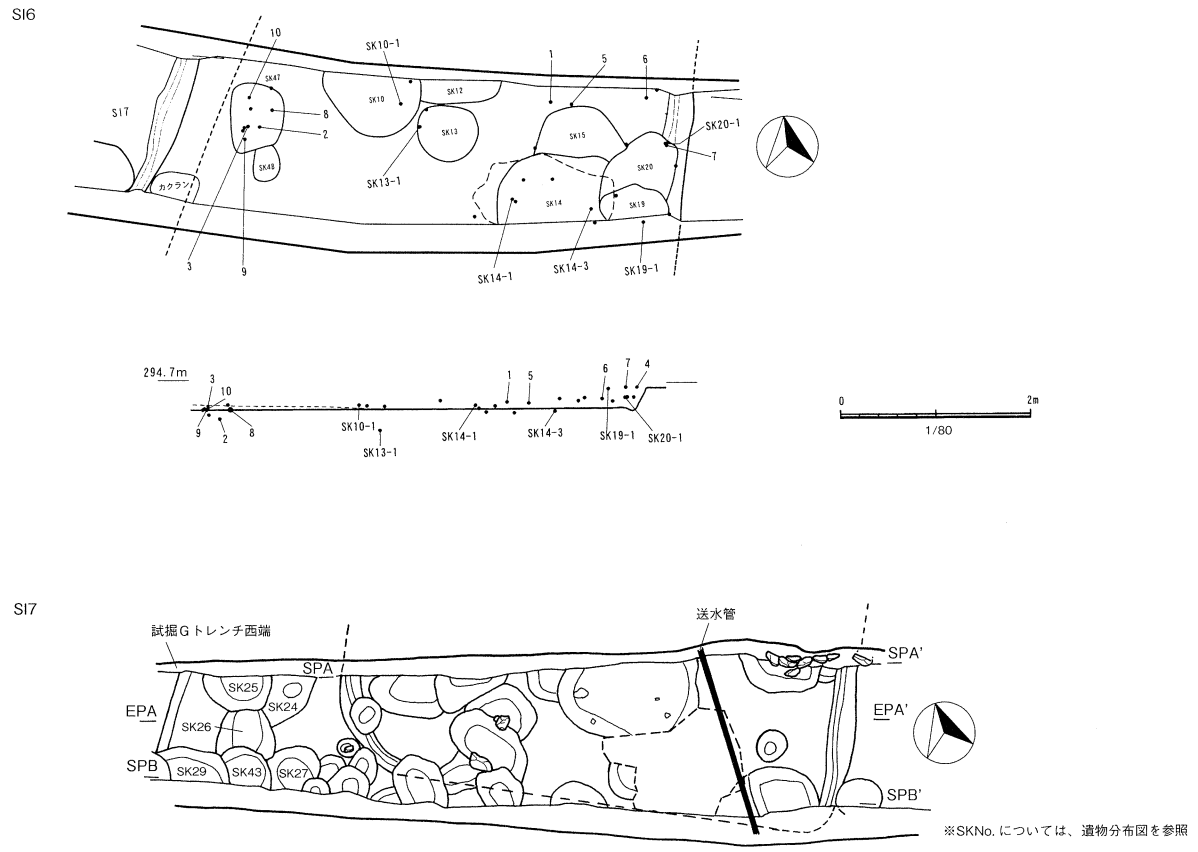




SI6 内 SK47・48
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）
2 褐色砂質土（10YR4/6）
3 褐色砂質土（10YR4/4）



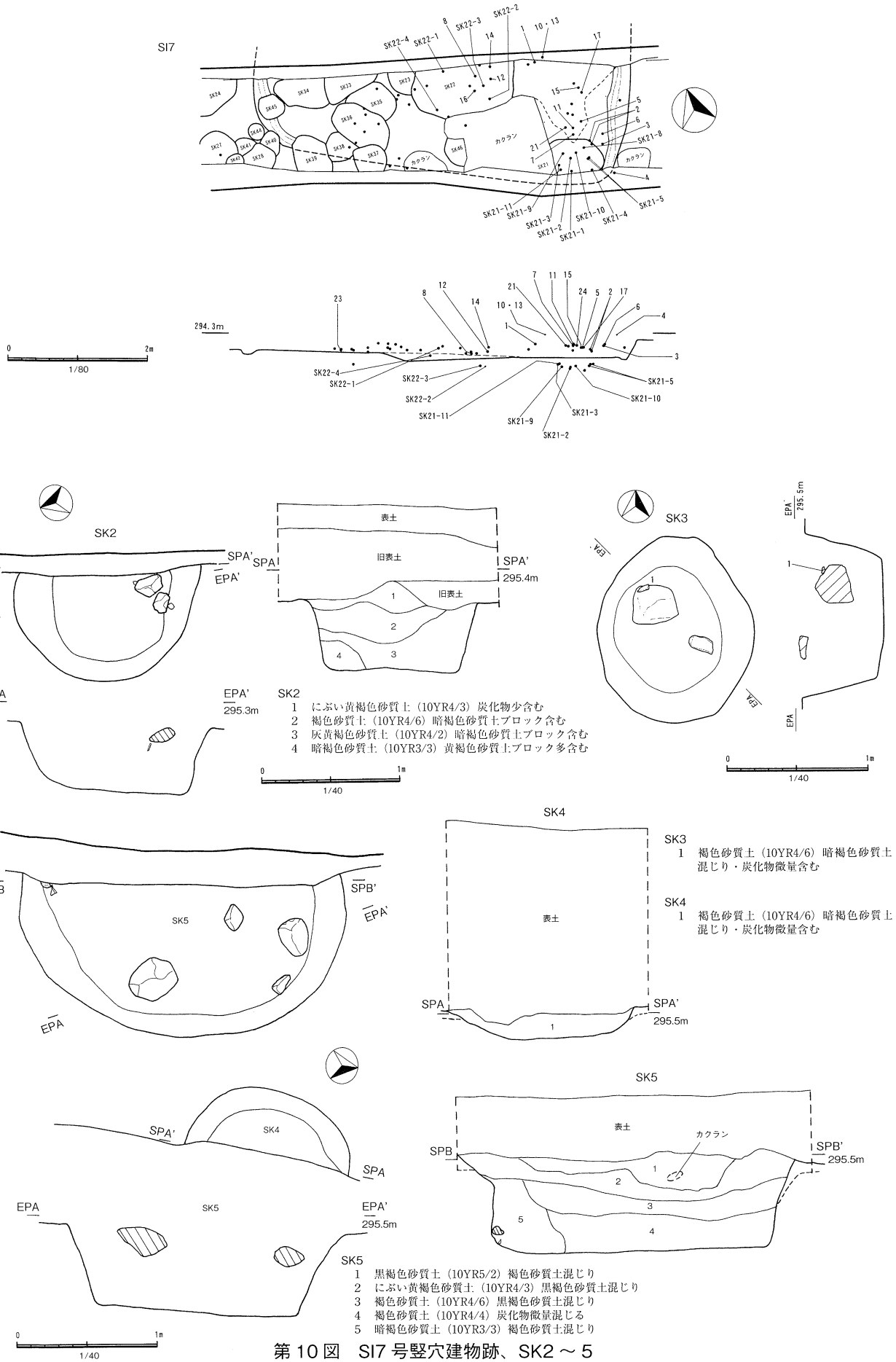
第８図　SI5・６号竪穴建物跡、SK10～15・19・20・47・48（SI6 中にも SK 番号あり）



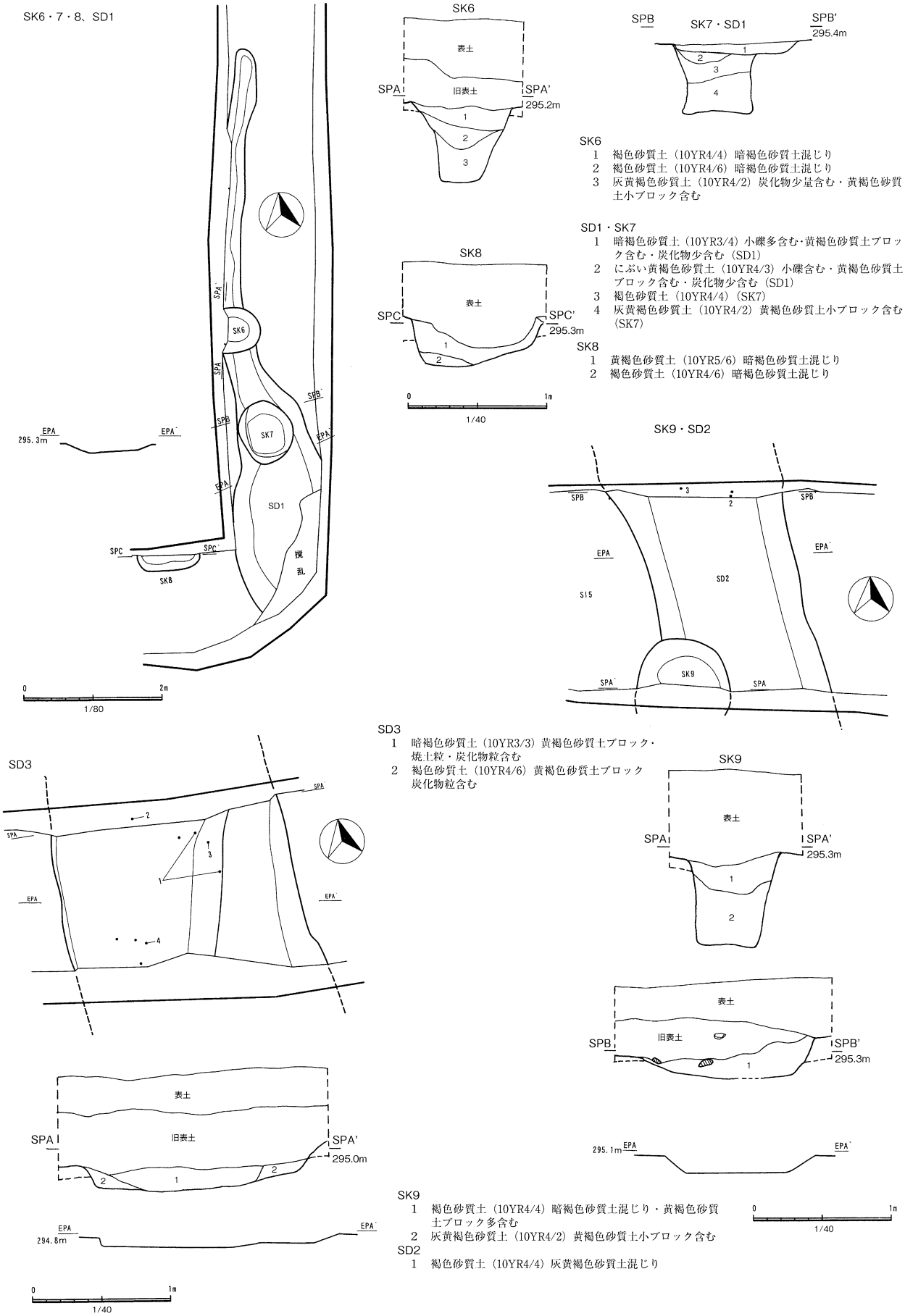
SI7 および SK21 ～ 23・27 ～ 29・33・34・37・39・43

1 褐色砂質土（10YR4/4）小礫混じり・炭化物・焼土粒含む
2 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色砂質土ブロック含む・炭化物粒含む
3 褐色砂質土（10YR4/4）炭化物多く含む
4 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色砂質土ブロック含む
5 褐色砂質土（10YR4/4）焼土ブロック・炭化物含む（カマド）
6 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）焼土ブロック・炭化物多く含む（カマド）
7 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）焼土小ブロック、にぶい黄褐色粘質土ブロック含む（カマド）
8 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）小礫、にぶい黄褐色粘質土ブロック含む（カマド）
a にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）炭化物やや多く含む・黄褐色砂質土ブロック多く含む・焼土小ブロック（SK22）
b 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色砂質土ブロック多含む・炭化物粒含む（SK22）
c にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色砂質土ブロック多含む・焼土粒少含む（SK23）
d にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色砂質土ブロック多含む・焼土粒少含む（SK33）
e 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色砂質土ブロック多含む・炭化物粒含む（SK33）
f 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色砂質土ブロック多含む（SK34）
g 褐灰色砂質土（10YR4/1）黄褐色砂質土ブロック多含む
h 褐灰色砂質土（10YR4/1）ややシルト質（SK21）
i 灰黄褐色砂質土（10YR5/2）ややシルト質　焼土小ブロック・炭化物粒含む（SK21）
j 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色砂質土小ブロック含む（SK37）
k にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色砂質土ブロック含む（SK37）
l 褐灰色砂質土（10YR4/1）黄褐色砂質土小ブロック含む（SK37）
m 褐灰色砂質土（10YR4/1）炭化物含む（SK39）
n 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色砂質土混じり（SK39）
o にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色砂質土混じり・炭化物少含む（SK39）
p 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色砂質土混じり（SK28）
q 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色砂質土ブロック含む（SK28）
r 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色砂質土ブロック多含む（SK27）
s 黒褐色砂質土（10YR3/2）炭化物粒含む（SK27）
t 灰黄褐色砂質土（10YR5/2）黄褐色砂質土ブロック多含む（SK27）
u 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色砂質土ブロック含む（SK43）
v にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色砂質土ブロック含む（SK43）
w 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色砂質土やや混じる黄褐色砂質土ブロック含む（SD6）
x にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）（SD6）
y 暗褐色砂質土（10YR3/4）小礫やや多い（SK29）

第９図　SI6・7 号竪穴建物跡、SK21 ～ 29・33 ～ 46（SI7 遺物分布図中にも SK 番号あり）



第10図　SI7号竪穴建物跡、SK2～5



SK6
1 褐色砂質土（10YR4/4）暗褐色砂質土混じり
2 褐色砂質土（10YR4/6）暗褐色砂質土混じり
3 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）炭化物少量含む・黄褐色砂質土小ブロック含む

SD1・SK7
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）小礫多含む・黄褐色砂質土ブロック含む・炭化物少含む（SD1）
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）小礫含む・黄褐色砂質土ブロック含む・炭化物少含む（SD1）
3 褐色砂質土（10YR4/4）（SK7）
4 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色砂質土小ブロック含む（SK7）

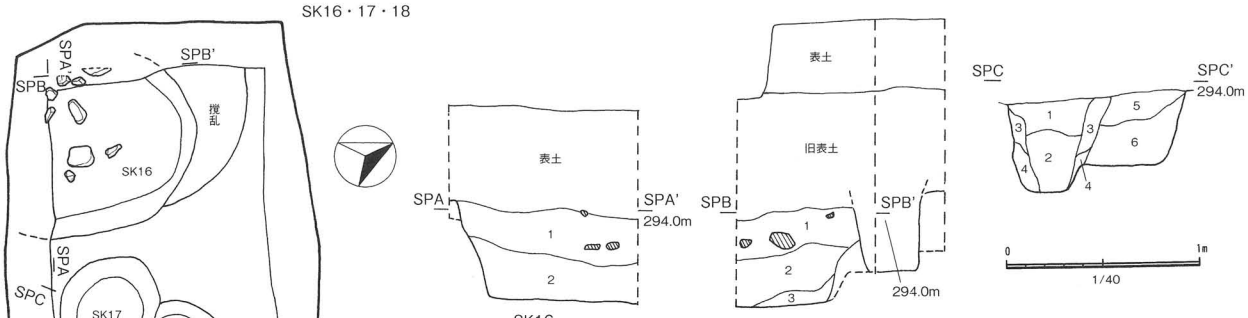
SK8
1 黄褐色砂質土（10YR5/6）暗褐色砂質土混じり
2 褐色砂質土（10YR4/6）暗褐色砂質土混じり

SD3
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色砂質土ブロック・焼土粒・炭化物粒含む
2 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色砂質土ブロック炭化物粒含む

SK9
1 褐色砂質土（10YR4/4）暗褐色砂質土混じり・黄褐色砂質土ブロック多含む
2 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色砂質土小ブロック含む

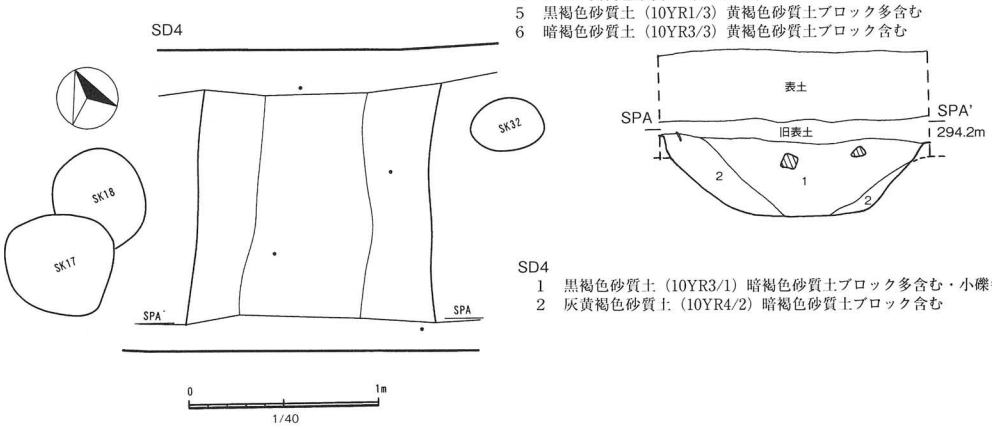
SD2
1 褐色砂質土（10YR4/4）灰黄褐色砂質土混じり

第11図　SK6～9、SD1～3

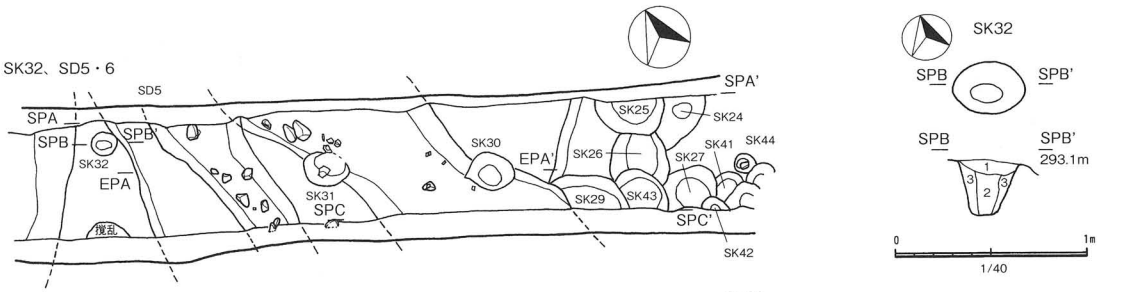


SK16
1　暗褐色砂質土（10YR3/4）炭化物・礫含む
2　褐色砂質土（10YR4/4）炭化物含む
3　にぶい黄褐色（10YR4/3）炭化物含む

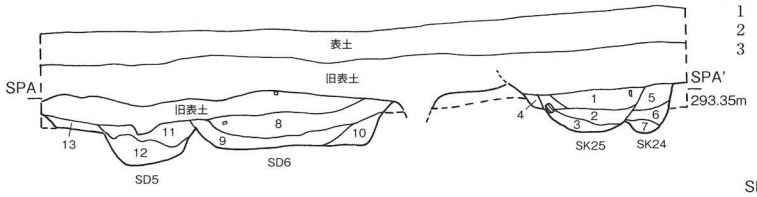
SK17・18
1　黒褐色砂質土（10YR1/3）炭化物
2　黒褐色砂質土（10YR3/2）
3　暗褐色砂質土（10YR3/3）
4　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）
5　黒褐色砂質土（10YR1/3）黄褐色砂質土ブロック多含む
6　暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色砂質土ブロック含む

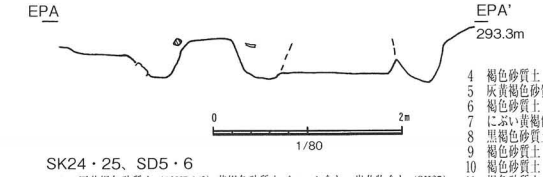


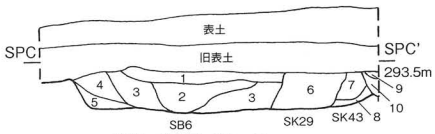
SD4
1　黒褐色砂質土（10YR3/1）暗褐色砂質土ブロック多含む・小礫多
2　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）暗褐色砂質土ブロック含む



SK32
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）暗褐色砂質土混じり
2　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）暗褐色砂質土混じり
3　褐色砂質土（10YR4/6）暗褐色砂質土ブロック含む



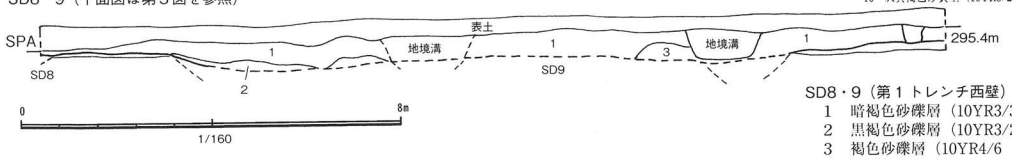




SK24・25、SD5・6
1　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色砂質土ブロック含む・炭化物含む（SK25）
2　褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色砂質土ブロック含む・炭化物含む（SK25）
3　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色砂質土ブロック含む（SK25）
4　褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色砂質土ブロック含む（SK25）
5　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色砂質土ブロック含む（SK24）
6　褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色砂質土ブロック含む・炭化物含む（SK24）
7　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色砂質土ブロック含む（SK24）
8　黒褐色砂質土（10YR3/2）小礫多含む・黄褐色砂質土ブロック含む（SD6）
9　褐色砂質土（10YR4/6）小礫多含む（SD6）
10　褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色砂質土ブロック含む（SD6）
11　褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色砂質土ブロック・炭化物含む（SD5）
12　褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色砂質土ブロック・炭化物含む（SD5）
13　褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色砂質土混じり

SD6・SK27・29・43
1　黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色砂質土やや混じる黄褐色砂質土ブロック含む（SD6）
2　黒褐色砂質土（10YR3/2）小礫多く含む（SD6）
3　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）（SD6）
4　褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色砂質土混じり（SD6）
5　褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色砂質土ブロック含む（SD6）
6　暗褐色砂質土（10YR3/4）小礫ややを多い（SK29）
7　暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色砂質土ブロック含む（SK43）
8　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色砂質土ブロック含む（SK43）
9　黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色砂質土ブロック多含む（SK27）
10　灰黄褐色砂質土（10YR5/2）黄褐色砂質土ブロック多含む（SK27）

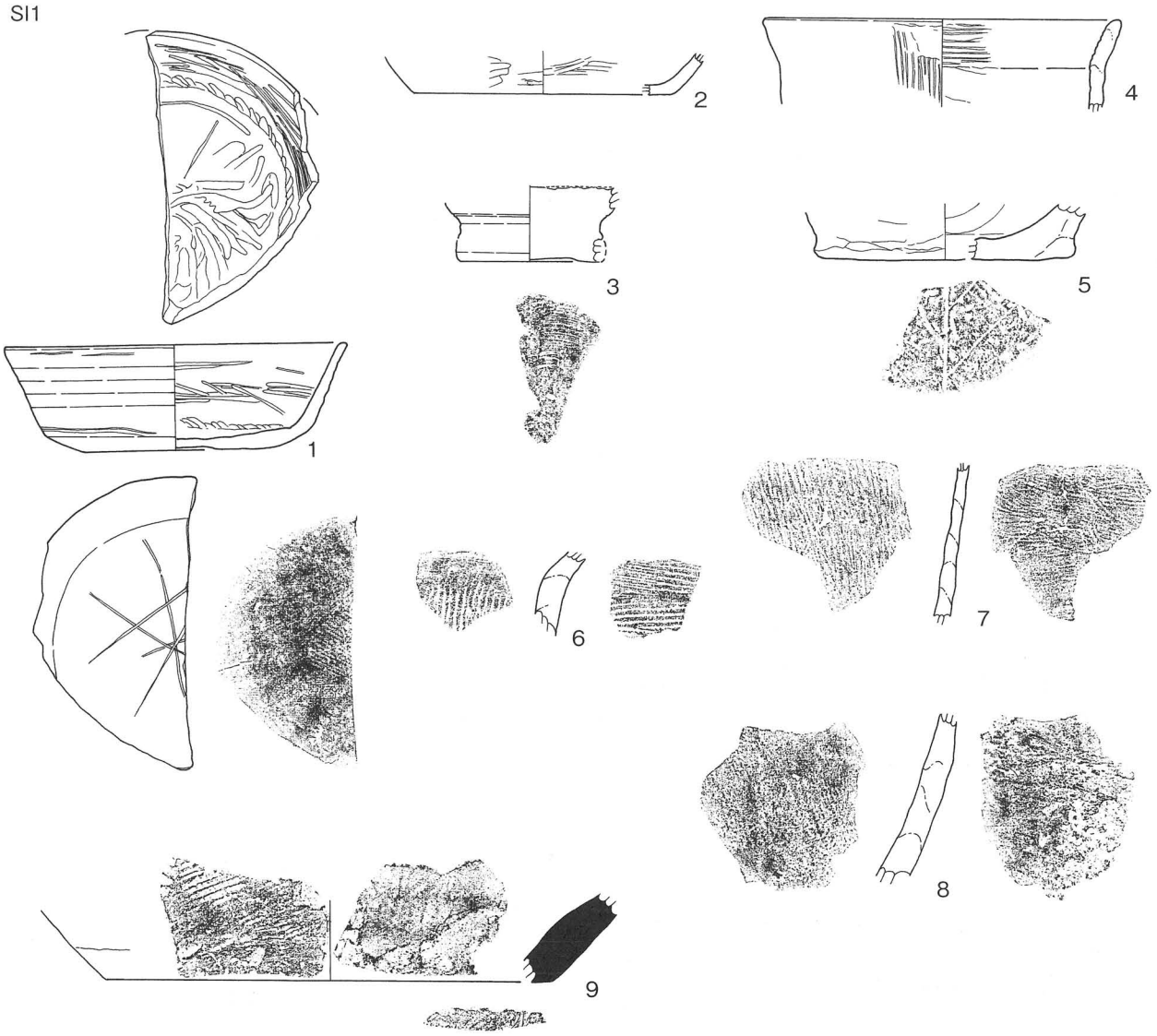
SD8・9（平面図は第５図を参照）



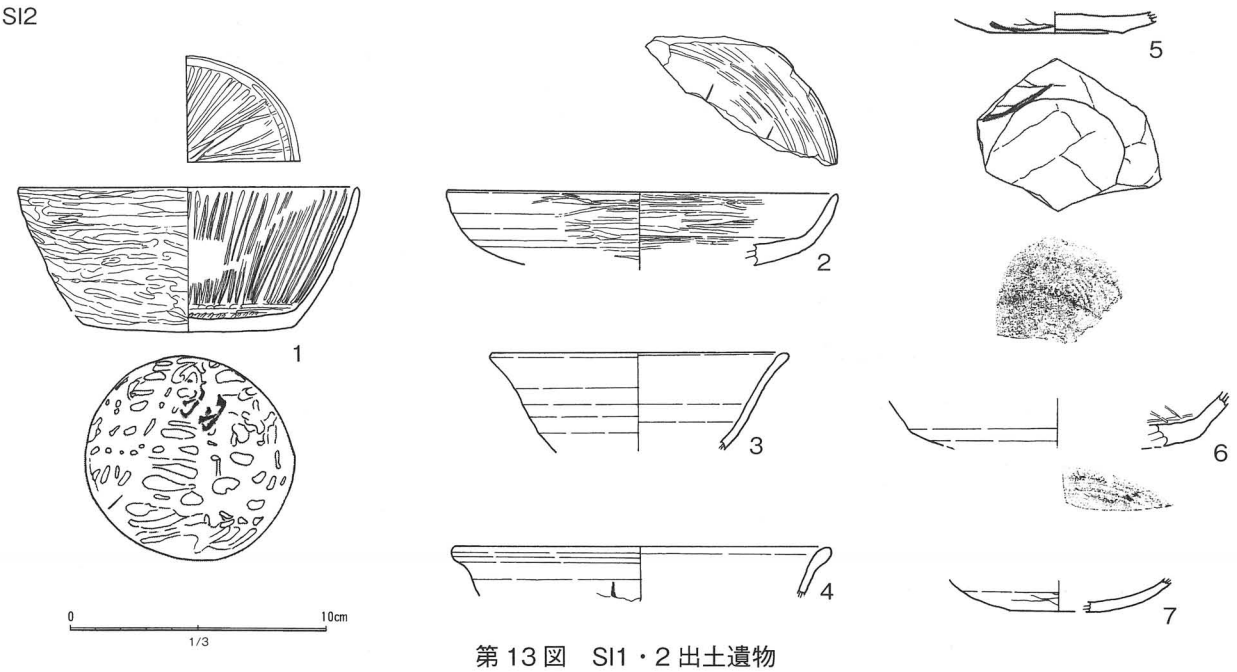
SD8・9（第１トレンチ西壁）
1　暗褐色砂礫層（10YR3/3）
2　黒褐色砂礫層（10YR3/2）
3　褐色砂礫層（10YR4/6

第12図　SK16～18・24～27・29～32・41～44、SD4～6・8・9

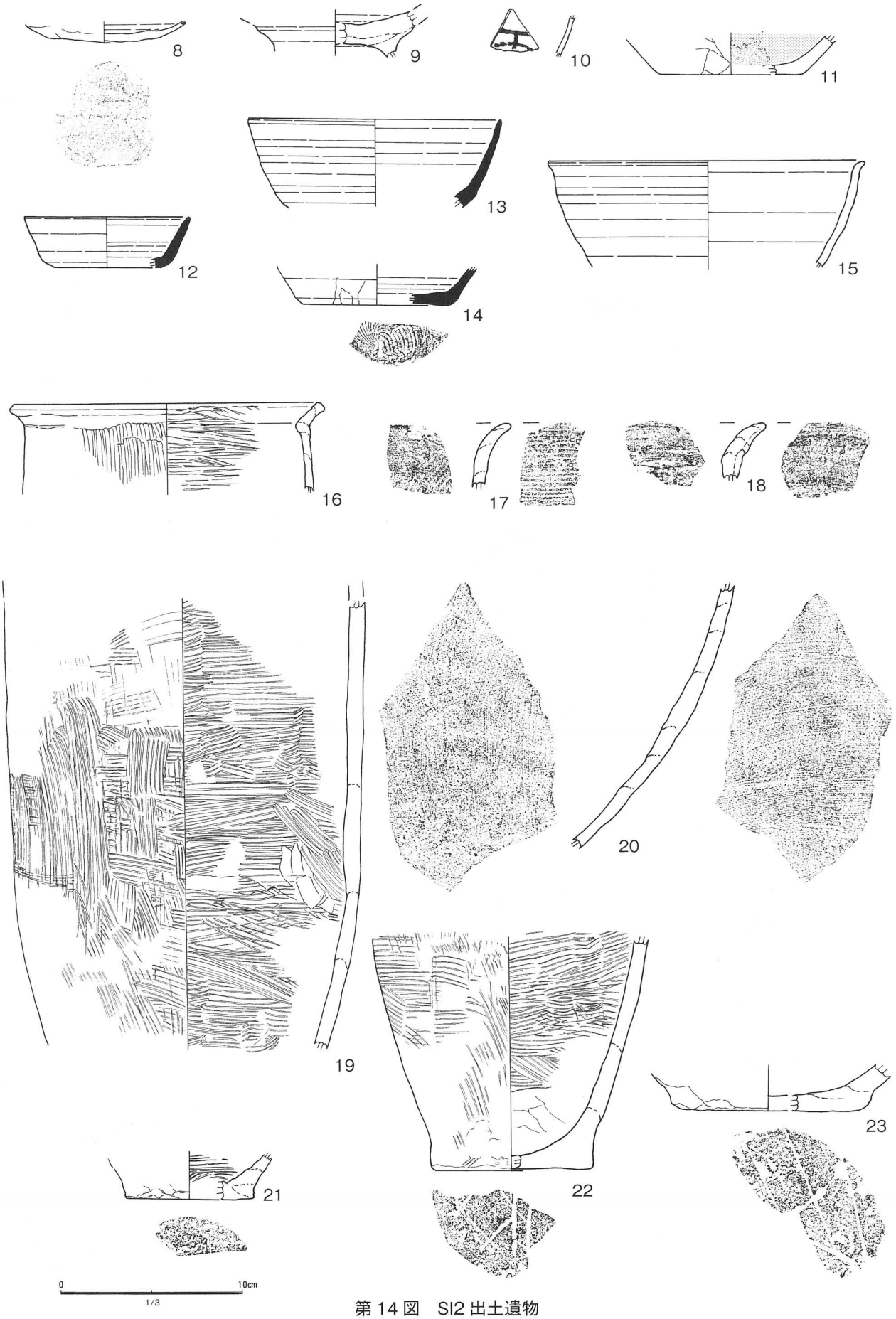
SI1



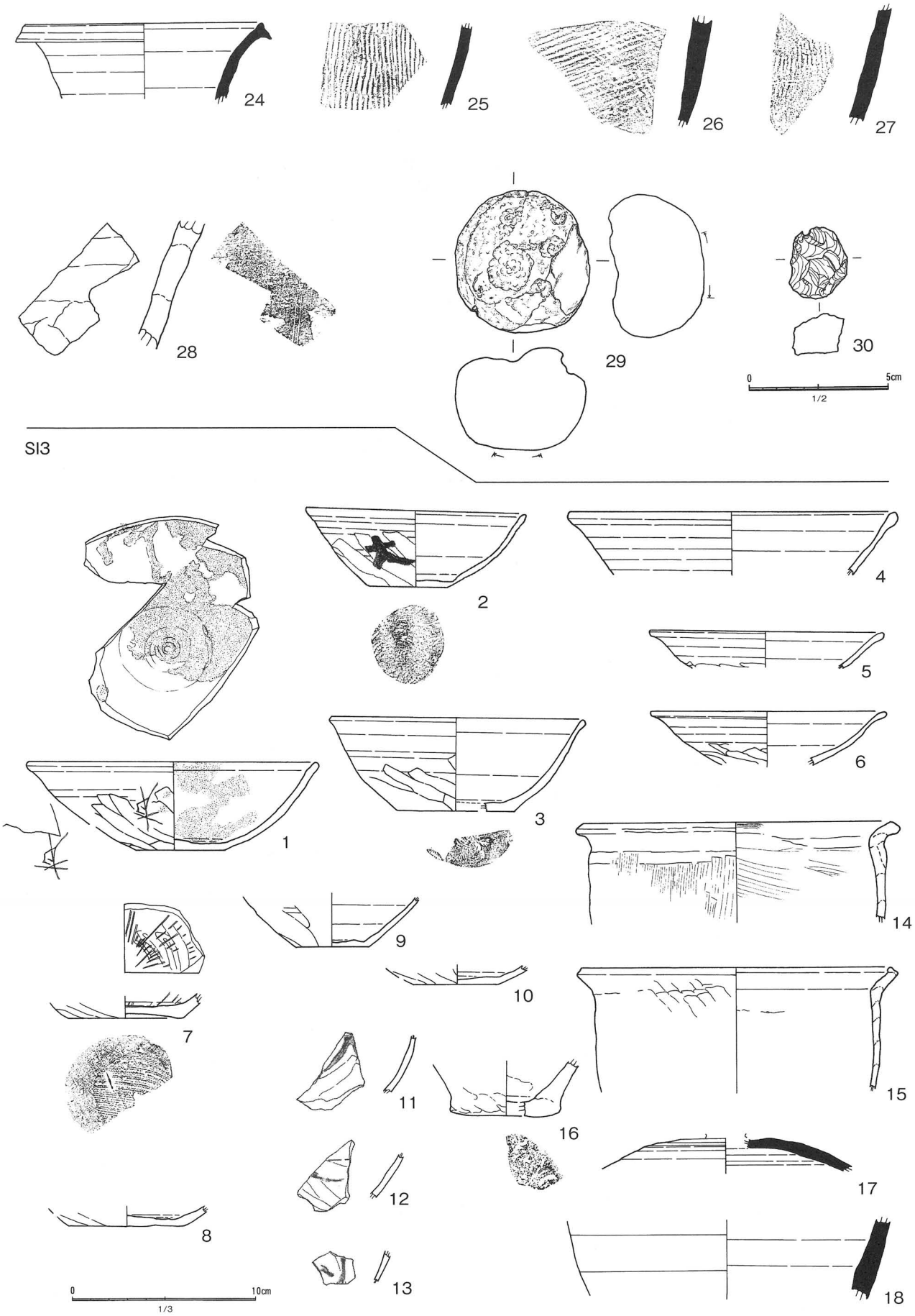
SI2



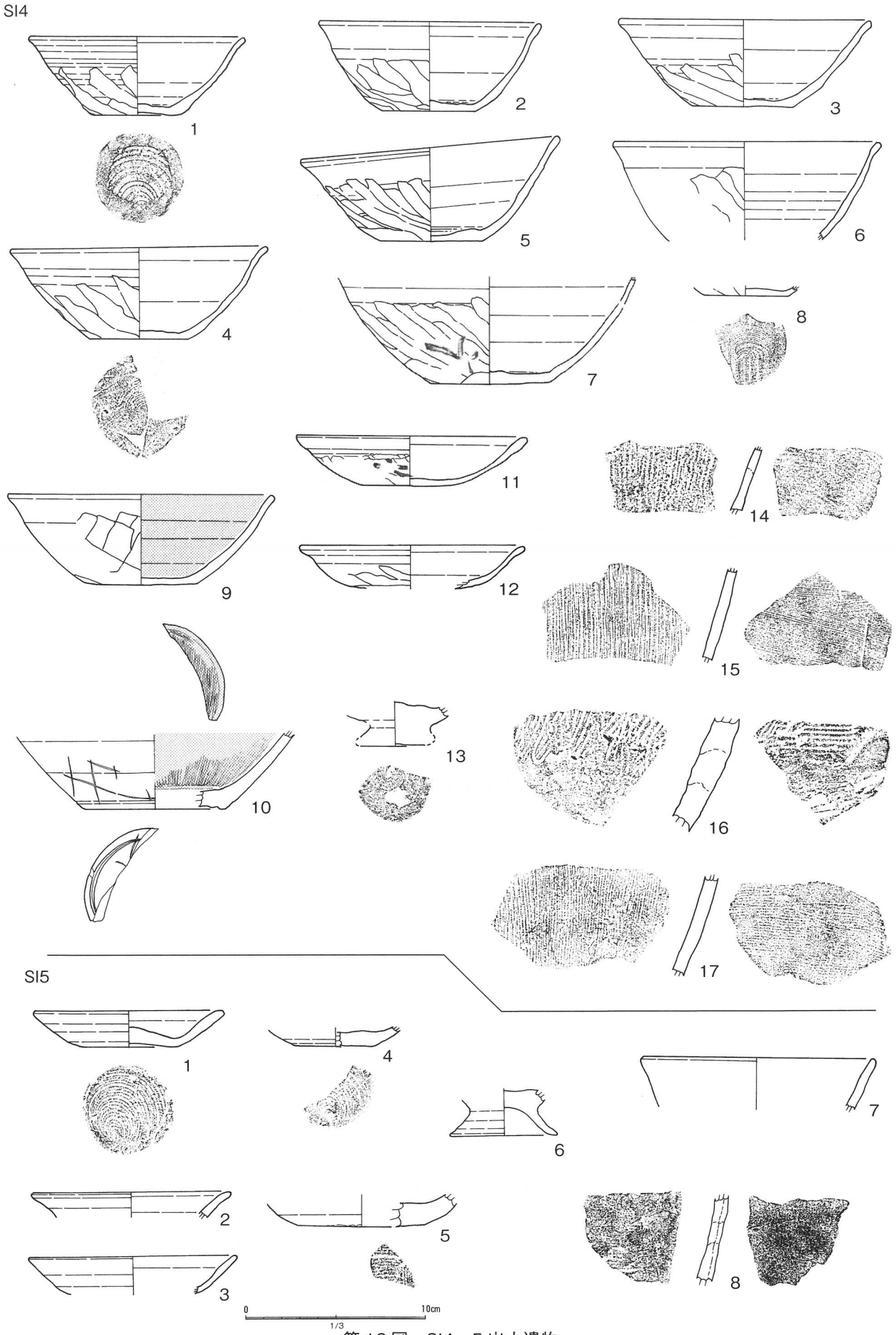
第13図　SI1・2出土遺物



第 14 図　SI2 出土遺物

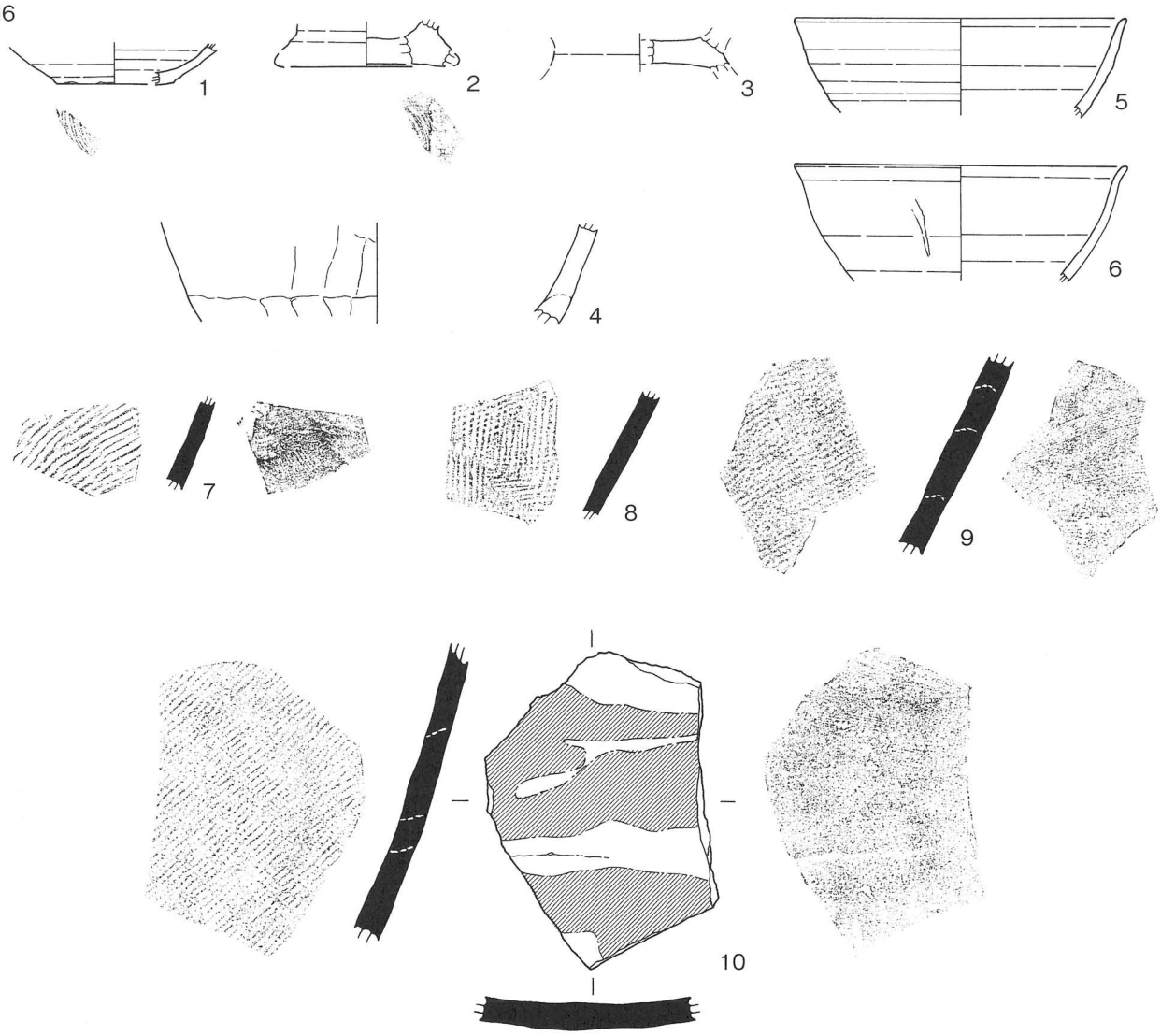


第15図　SI2・3出土遺物

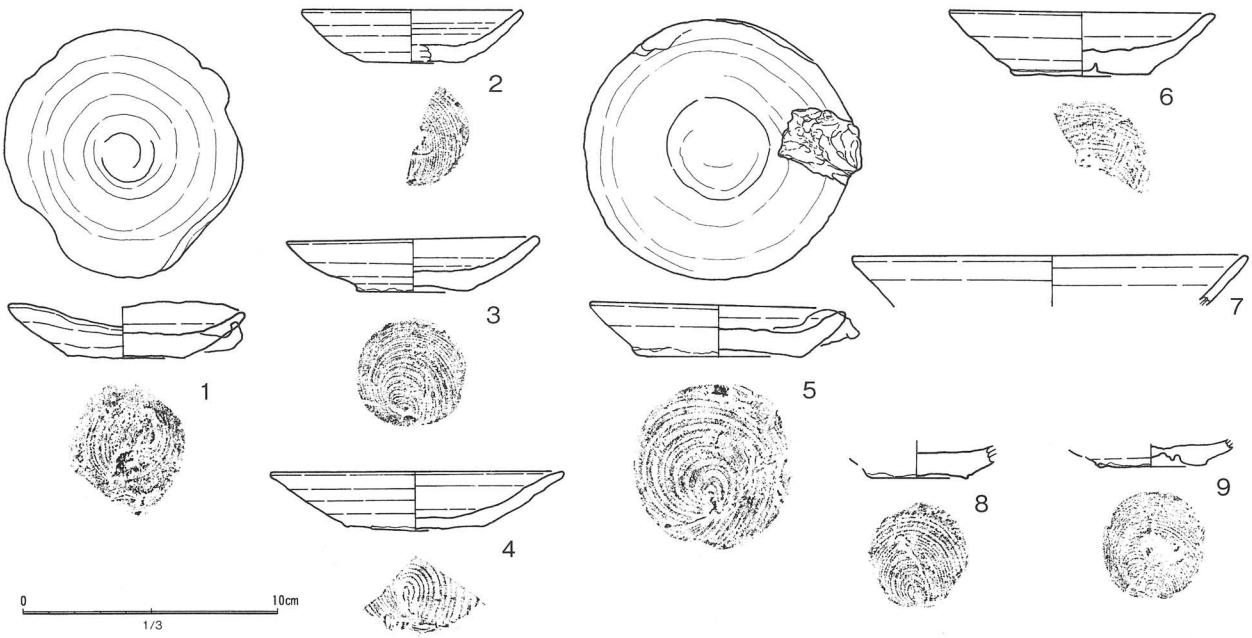


第16図　SI4・5出土遺物

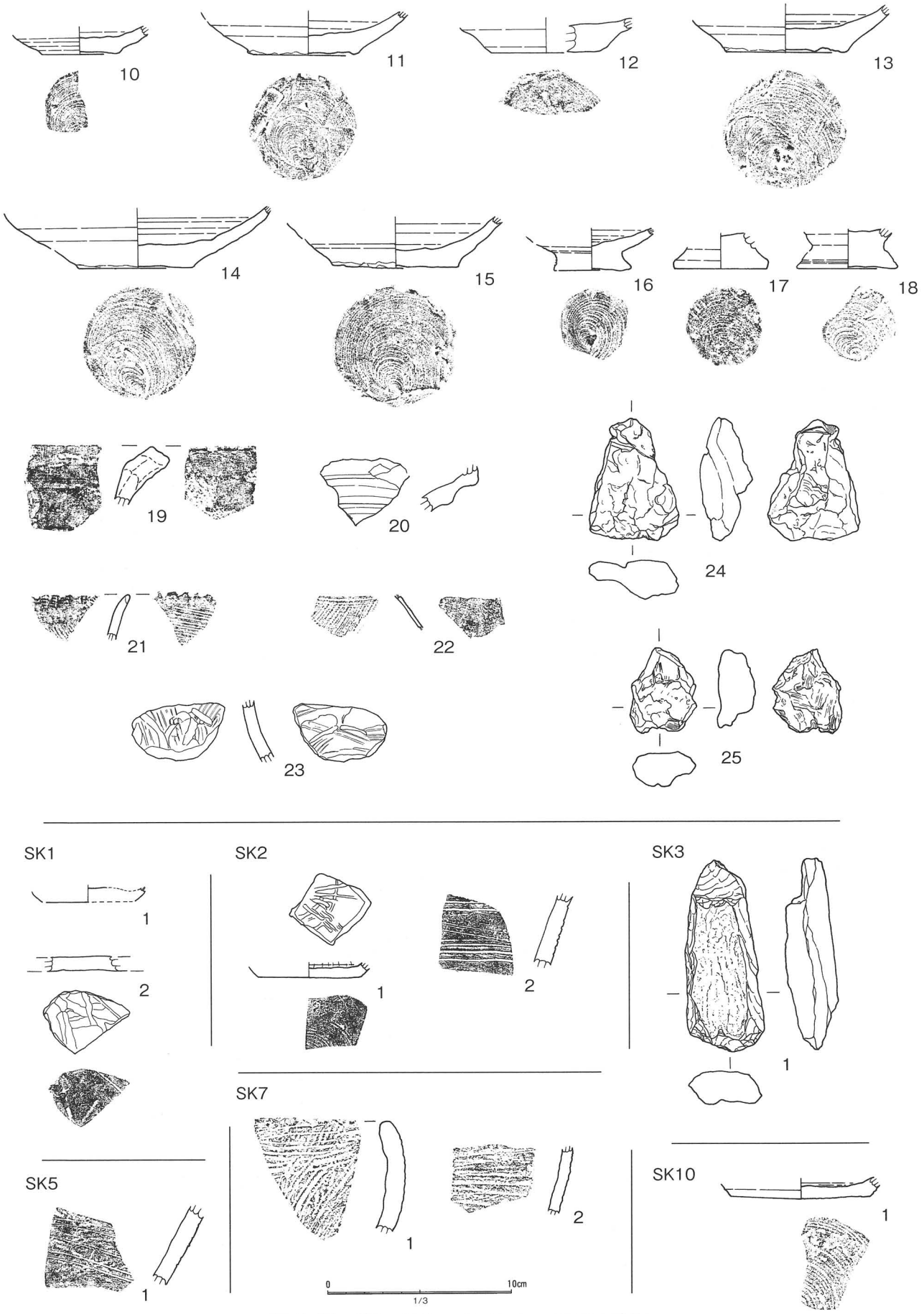
SI6



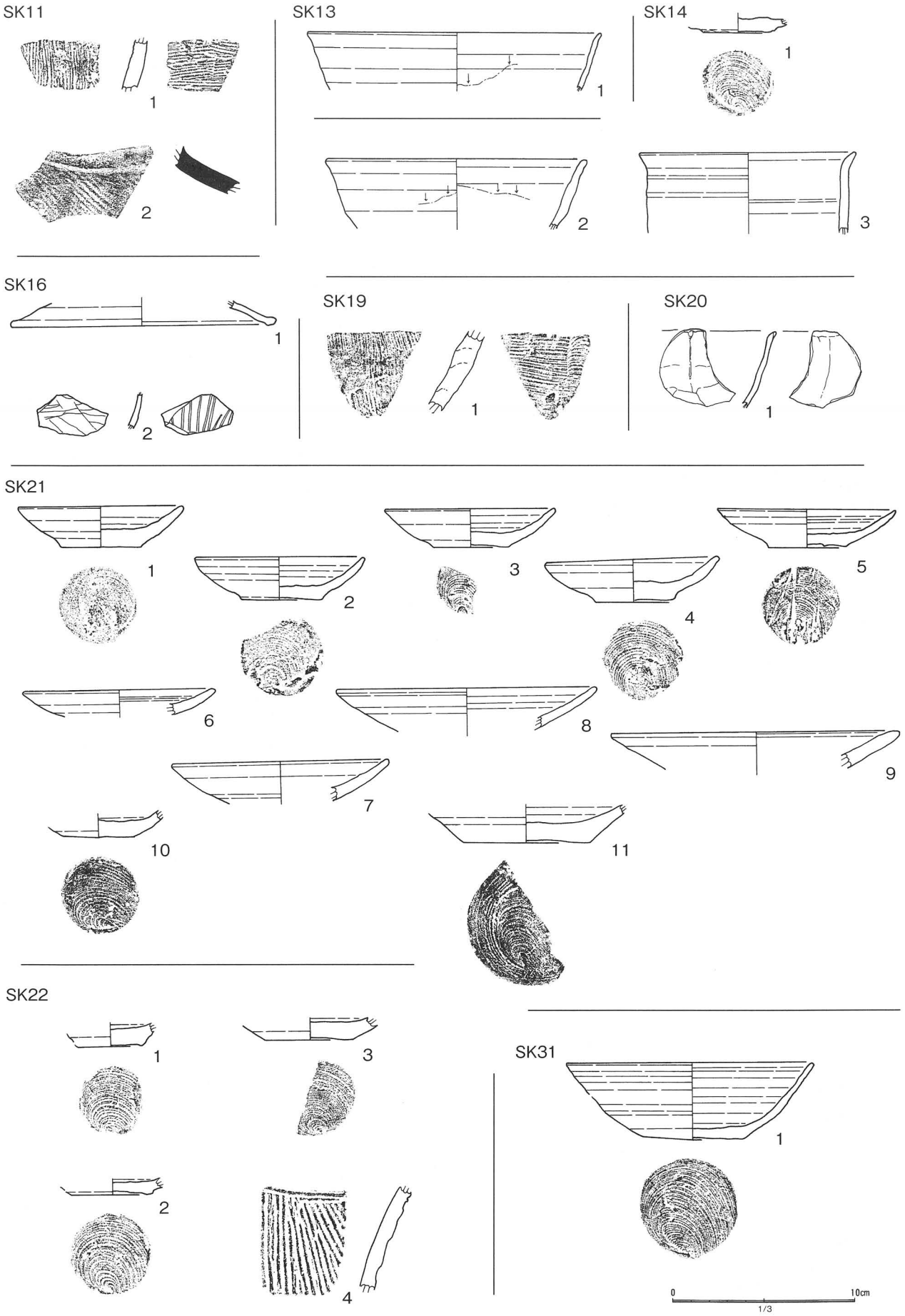
SI7



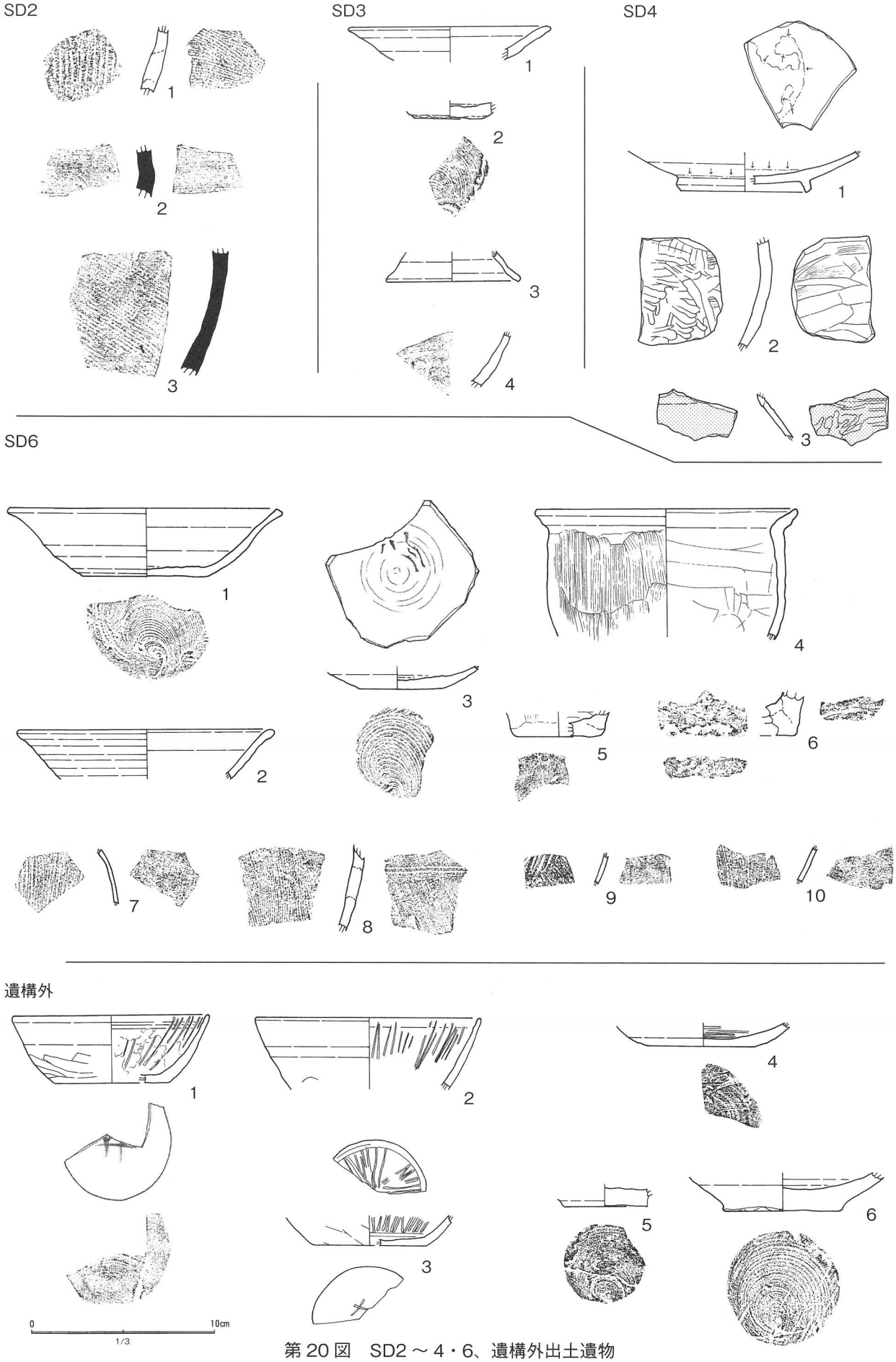
第17図　SI6・7出土遺物



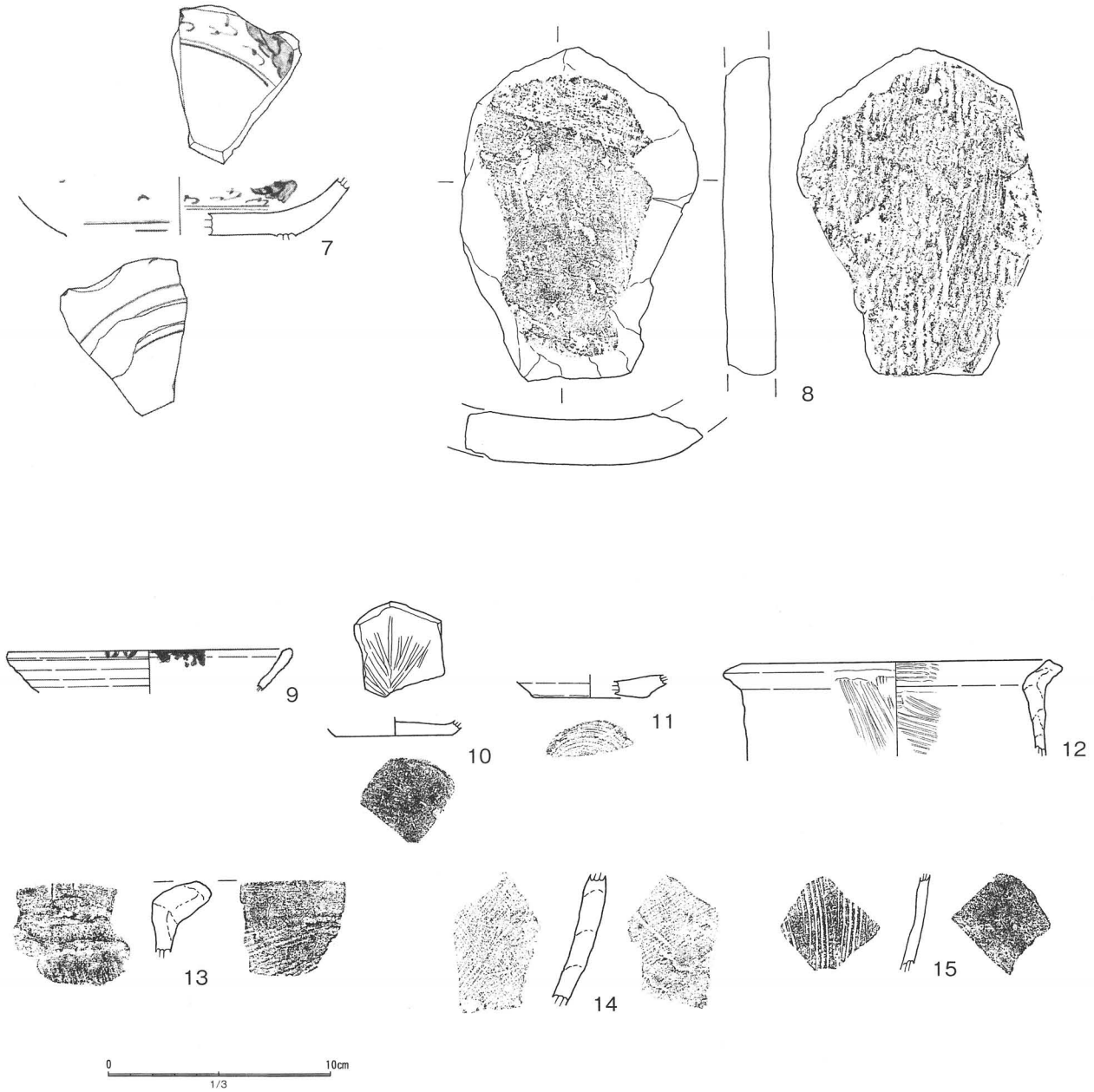
第18図　SI7・SK1～3・5・7・10出土遺物



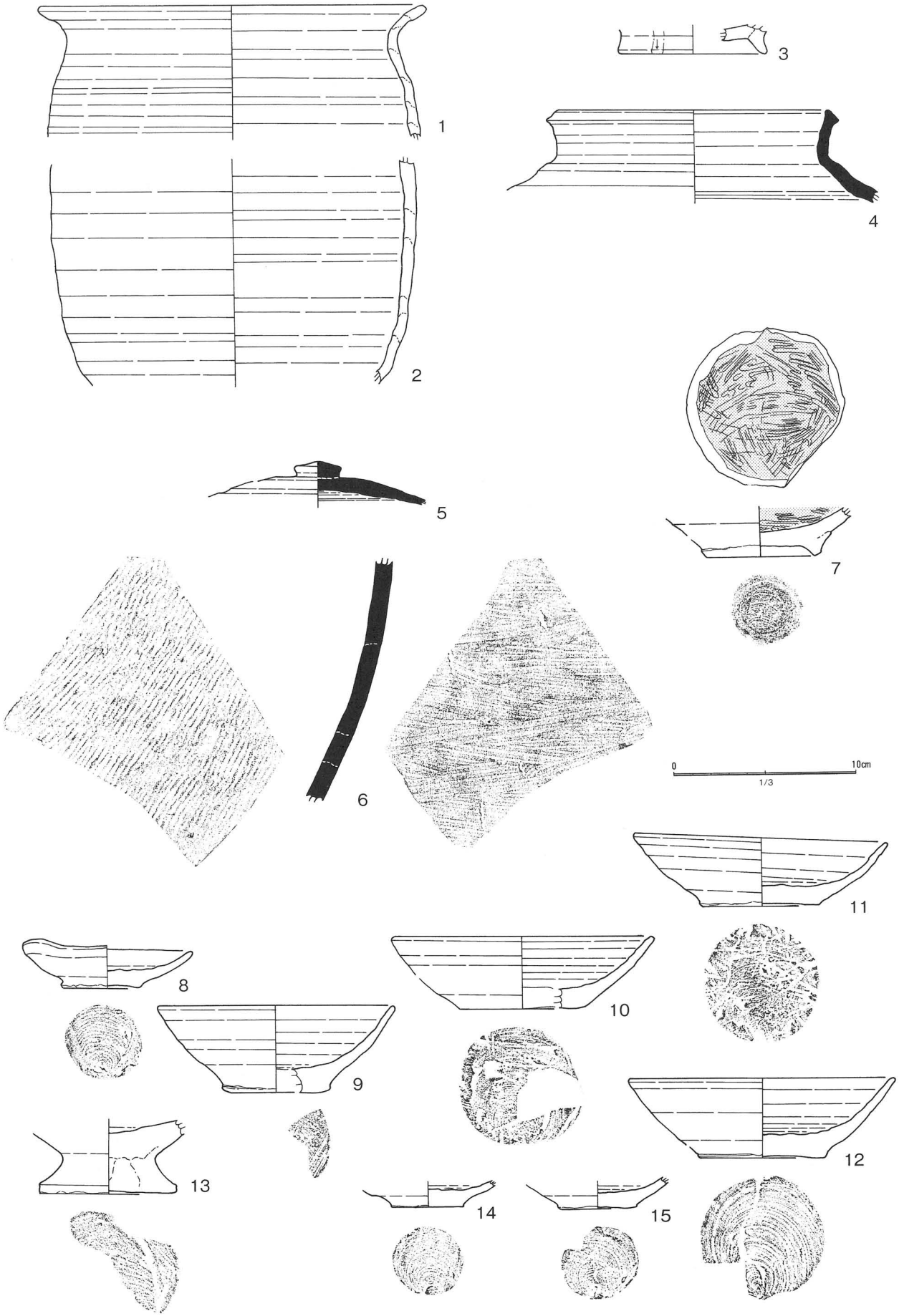
第19図　SK11・13・14・16・19・20～22・31 出土遺物



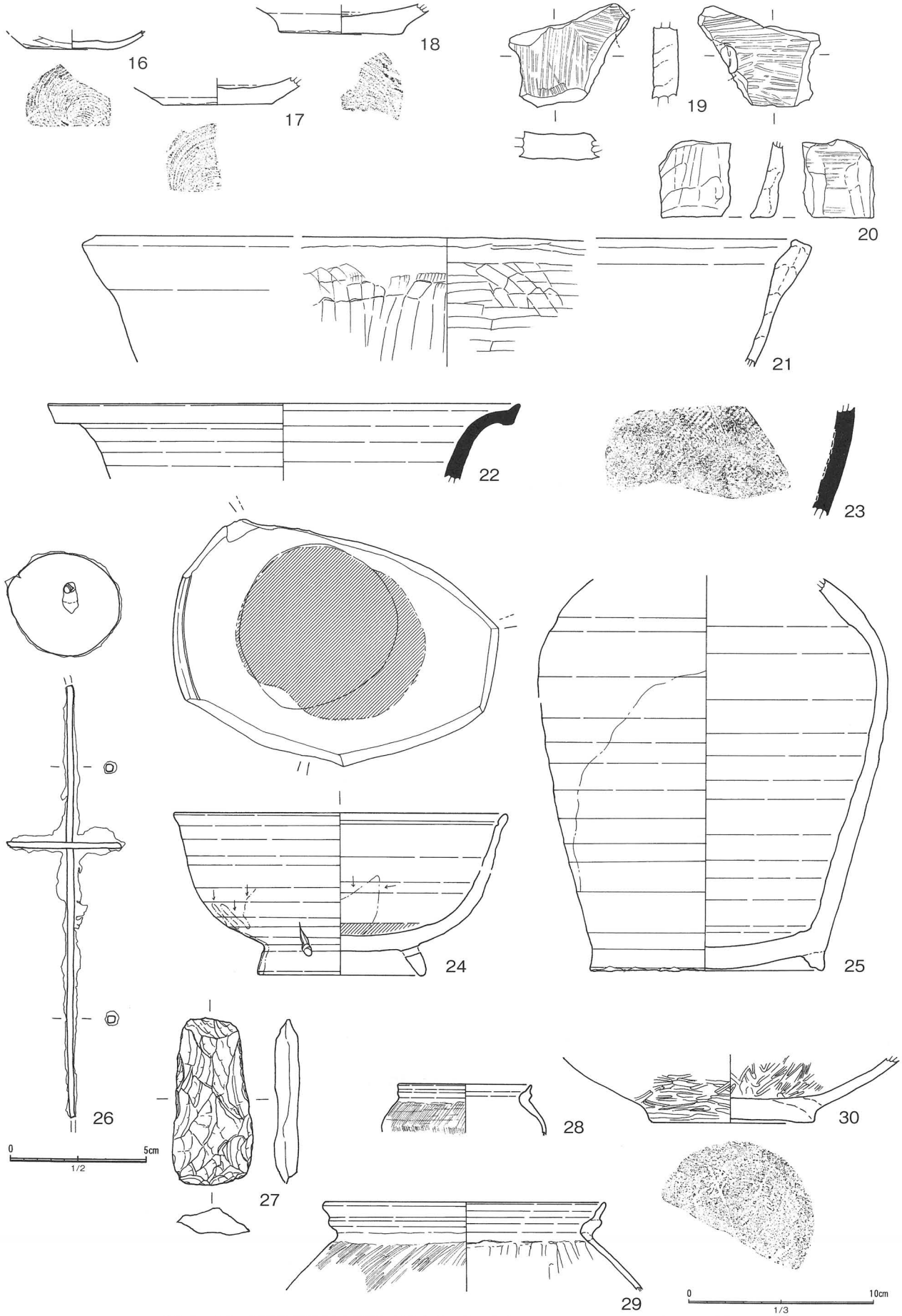
第 20 図　SD2 ～ 4・6、遺構外出土遺物



第21図　遺構外出土遺物



第22図　試掘調査出土遺物(1)〈1･2:Bトレンチ、3･4:Cトレンチ、5･6:Eトレンチ、7:Fトレンチ、8～15:Gトレンチ〉



第23図　試掘調査出土遺物(2)〈16～27:Gトレンチ、28～30:Hトレンチ〉

図　　版

図版１

１. 遺跡調査前状況
（第１トレンチ付近、東から）

２. 遺跡調査前状況
（第２・３トレンチ付近、南から）

３. 遺跡調査前状況（第２トレンチ
東西ライン付近、西から）

４. 重機によるトレンチ掘削風景１

５. 重機によるトレンチ掘削風景２

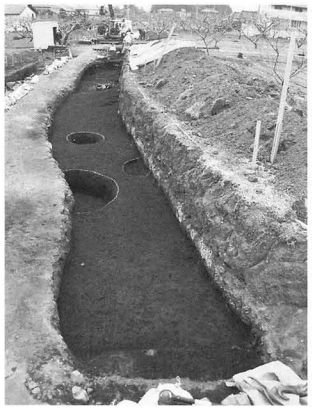
６. 調査風景１

７. 第２トレンチ東西ライン完掘全景

８. 第２トレンチ東西南北ライン完掘
近景（南東から）

９. 第２トレンチ南北ライン・
第３トレンチ完掘近景（南東から）

10. 第３トレンチ完掘近景（北から）



11. 第３トレンチ完掘近景
（南から）

12. 第１トレンチ（SD8・9）
完掘全景（南から）

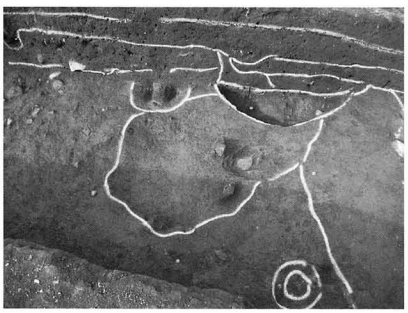
13. 第１トレンチ（SD8・9）
西壁南側セクション（北東から）

14. 第１トレンチ（SD8・9）
西壁北側セクション（北東から）

15. 第２トレンチ（SD7）
検出状況（東から）

16.SI1 完掘状況（南東から）

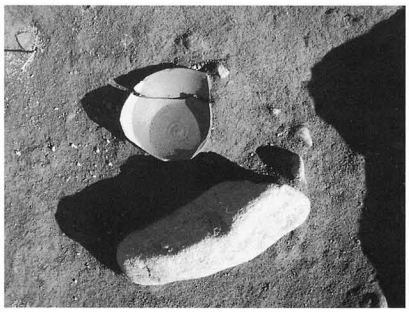
17.SI1 遺物出土状況（南から）


18.SI1 カマド完掘状況

19.SI2・4 完掘状況（西から）

20.SI2 カマド完掘状況

21.SI2 カマド遺物出土状況


22.SI2 カマド脇遺物出土状況

23.SI3 完掘状況（西から）

24.SI3 カマド検出状況

25.SI3 棚状施設セクション

26.SI3 棚状施設上面出土土器

27.SI4 遺物出土状況全景（南東から）

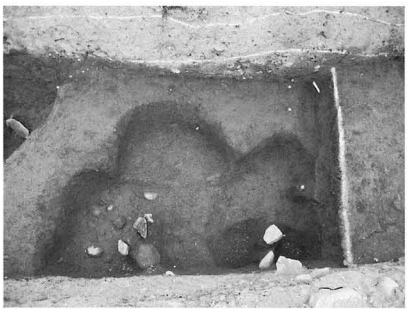
28.SI4 遺物出土状況近景

29.SI5 完掘状況（東から）

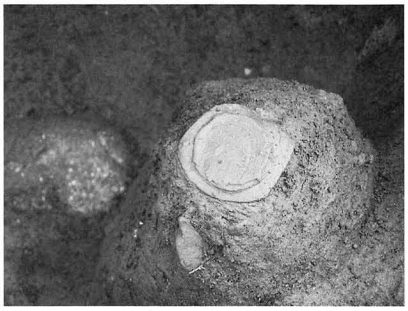
30.SI05 内間仕切り施設等検出状況
（南から）

図版３

31.SI6 完掘状況（東から）



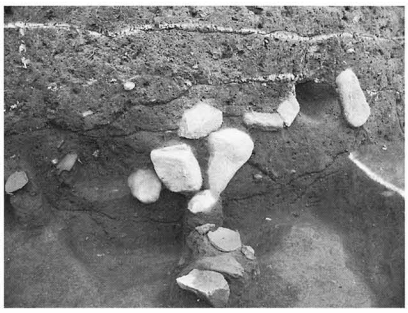
32.SI6 内 SK14・15・19・20 完掘状況（南から）



33.SI6 内 SK14 遺物出土状況

34.SI6 内 SK10・12 検出状況

35.SI7 完掘状況（南西から）



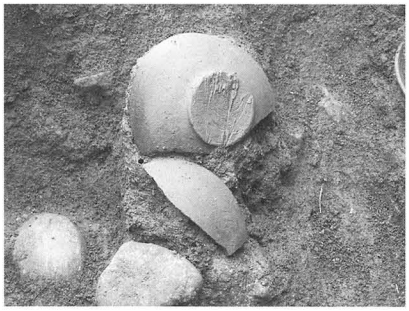
36.SI7 カマド検出状況

37.SI7 カマド周辺部遺物出土状況（西から）

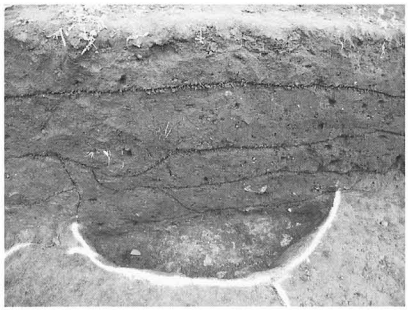
38.SI7 カマド前面土器出土状況

39.SI7 カマド南脇遺物出土状況

40.SI7 内 SK21 遺物出土状況

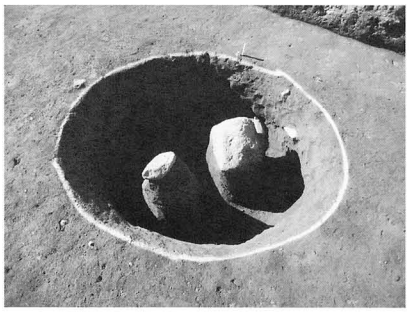


41.SI7 内 SK21 遺物出土状況近景

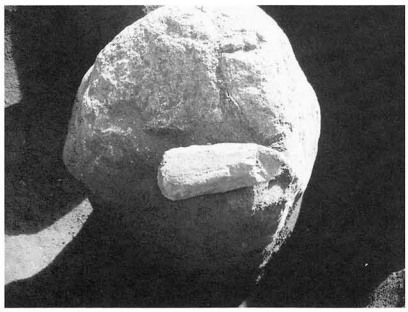


42.SK1 検出状況（東から）

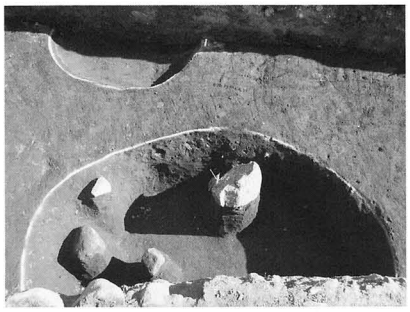
43.SK2 検出状況（西から）

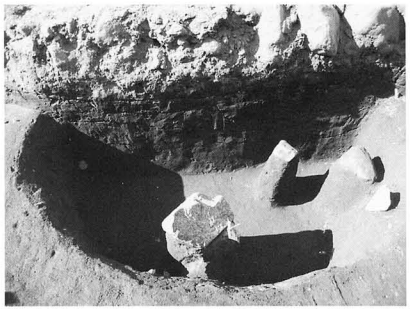


44.SK3 遺物出土・完掘状況（北東から）



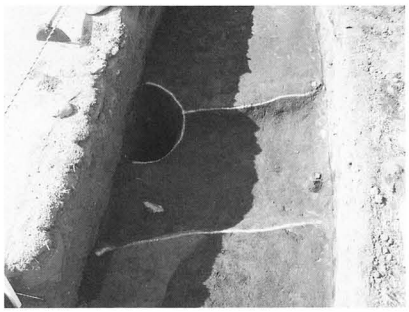
45.SK3 遺物出土状況


46.SK4・5 完掘状況（西から）


47.SK5 完掘状況（東から）

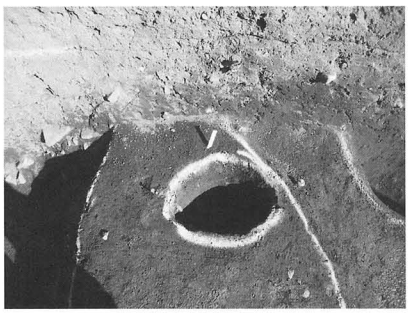
48.SD1・SK6・7 完掘状況
（北東から）

49.SK6・7 完掘状況（南東から）

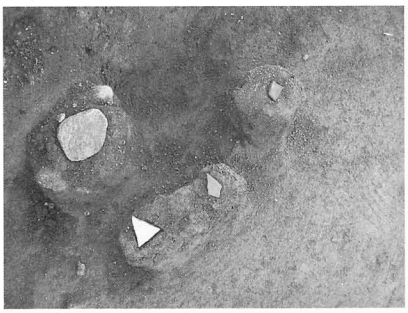

50.SK9・SD2 完掘状況（東から）

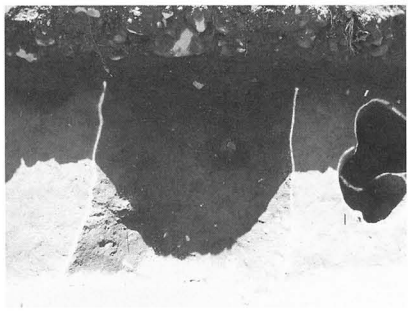
51.SK9 完掘状況（北から）

52.SK24 ～ 29・40 ～ 45 等完掘状況
（南から）


53.SK32 完掘状況（南から）

54.SD3 完掘状況（東から）


55.SD3 遺物出土状況


56.SD4 完掘状況（北から）

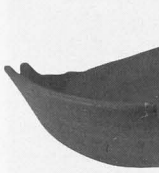
57.SD5・6、SK31 完掘・遺物出土状況
（南から）

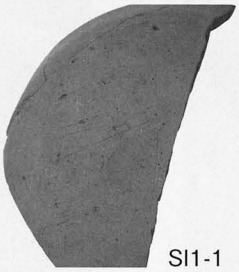
58.SD6・SK31 遺物出土状況（北から）

59. 調査風景 2

60. 調査風景 3

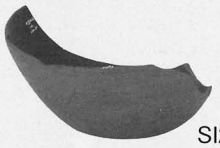
図版５


SI1-1


SI1-1

SI1-3

SI1-5


SI2-1

SI2-1（墨書）

SI2-9

SI2-10（墨）

SI2-19

SI2-22

SI2-14

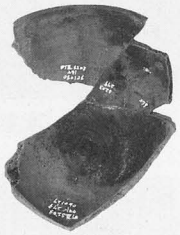
SI2-16

SI3-1

SI2-23

SI2-29

SI2-30（墨曜石）


SI3-1（内面）

SI3-2

SI3-3

SI3-15

SI3-2（墨書アップ）

SI3-5

SI3-14

SI4-1

SI4-2

SI4-3

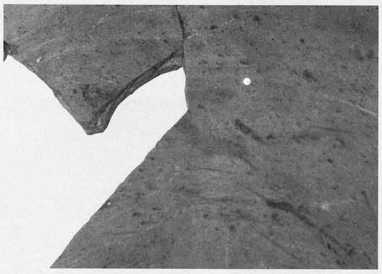
SI4-4

SI4-5

SI4-7

SI4-9

SI4-11


SI4-11（墨書アップ）

SI4-13

SI4-16

SI4-17

SI5-1

SI5-2

SI5-6

SI5-7

SI6-5

SI6-6

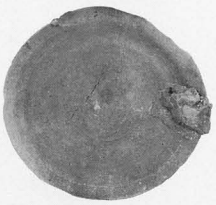
SI6-7

SI6-9

SI7-1（内面）

SI6-10（外面）

SI6-10（内面）


SI7-5（内面）

SI7-1

SI7-3

SI7-5

SI7-9

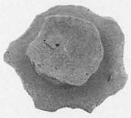
SI7-11

SI7-13

SI7-14

SI7-15

SI7-16


SI7-16（底面）

SI7-17

SI7-17（底面）

SI7-18

SI7-24

SI7-25

SK3-1

SK7-1

SK20-1

SK21-1

SK21-2

図版７

SK21-4

SK21-5

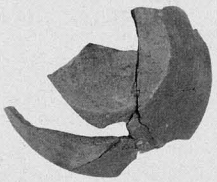
SK31-1

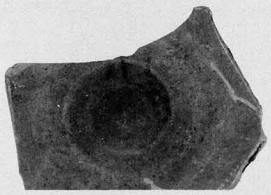
遺外１

SK21-4（底面）

SD4-1

SD6-1


遺外１（底部墨書）


SD6-3

SD6-4

遺外３

遺外８（内面）

遺外８（外面）

試５

試７

試８

試９

試10

試11

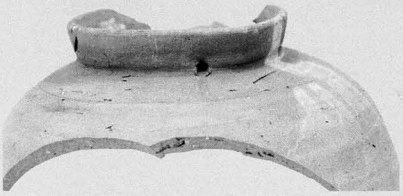
試12

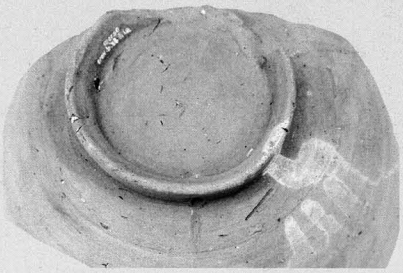
試13

試25

試26

試24


試24（外面）


試24（外面）

試27

試28

試29

報告書抄録

フリガナ	マチヤイセキ		
書名	町屋遺跡		
副書名	市道八代711、719、758号線改良に伴う埋蔵文化財調査報告書		
シリーズ名	笛吹市文化財調査報告書	シリーズ番号	第9集
編著者名	平野　修		
編集機関	笛吹市教育委員会文化財課	財団法人 山梨文化財研究所	
所在地	〒406-0031 山梨県笛吹市石和町市部809-1 TEL 055-261-3342	〒406－0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566 TEL 055-263-6441／FAX 055-261-0462	
発行年月日	平成20年3月31日		
所収遺跡名	町屋遺跡		
所在地	山梨県笛吹市八代町米倉47-2他	北緯　36°06′13″　東経　140°05′16″	
コード	市町村	251	
	遺跡番号	33	
調査期間	平成18年（2006）1月10日から2月28日		
調査面積	約200㎡		
調査原因	市道改良工事		
種別	散布地		
主な時代	縄文時代前期・中期・後期／弥生時代後期／古墳時代前期／奈良時代／平安時代／中世／近世／近代／現代		
主な遺構	竪穴建物／土坑／ピット／溝状遺構／自然流路		
主な遺物	縄文式土器／弥生式土器／土師器／須恵器／灰釉陶器／土師質土器／白磁／中世土師質土器／近・現代陶磁器／凹石／打製石斧／石核／粘土塊／瓦／鉄製紡錘車		
特記事項	棚状施設をもつ平安時代の竪穴建物跡、11～12世紀代の白磁片の出土		

なお、緯度・経度は世界測地系データに基づく数値である。

笛吹市文化財調査報告書　第９集

町　屋　遺　跡

発行日　平成 20 年(2008) 3 月 31 日
編　集　笛吹市教育委員会・㈶山梨文化財研究所
発　行　笛吹市教育委員会・㈶山梨文化財研究所
印　刷　㈱帝京サービス

Fuefuki City Archaeological Report Vol.9

The Report of Archaeological Research of MACHIYA Site

An Archaeological Rescue Survey prior to the improvement of City Road 711, 719 and 758

March,2008

Fuefuki City Board of Education

YAMANASHI RESEARCH INSTITUTE OF CULTUAL PROPERTIES